

ヒマラヤ

No.390



2004 MAY



THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN

日本ヒマラヤ協会

HAJ

平成16年度通常会員総会のお知らせ !!

日本ヒマラヤ協会平成16年度通常会員総会を下記により開催いたします。

ご承知のように、総会は本会の最高意思決定機関でありますので、会員の皆様には万障繰り合せのうえ出席くださるようお願いいたします。

なお、やむを得ず欠席される場合は、定款の定めるところにより、委任状を必ず提出されるようお願いいたします。（委任状は、添付いたしました料金受取人払はがきをご利用ください。）5月13日までに必着するようお願いいたします。

記

1. 日時 平成16年5月15日(土)午後1時～2時
2. 場所 東京都豊島区東池袋4-7-7
かんぽヘルスプラザ東京
☎ 03-5952-6881
JR池袋駅東口から徒歩8分
地下鉄有楽町線東池袋（出口A2）
から徒歩2分

3. 議事

- (1) 議案第1号 平成15年度事業報告について
- (2) 議案第2号 平成15年度収支決算について
- (3) 議案第3号 平成16年度事業計画について
- (4) 議案第4号 平成16年度収支予算について

4. その他

ニンチン・カンサ トレッキング説明会

総会終了後、午後2時30分から同じ会場にて、今夏実施のトレッキングの説明会を開催します。参加を希望される方は、「総会出欠ハガキ」に「説明会希望」と明示して下さい。

表紙写真

野沢井歩の家族とヒムルン・ヒマールを求めてフライトすると左に1999年秋に彼と挑んで頂上直下で涙をのんだカバン（6,717m）と2003年夏、私が挑戦する予定であったカンペンチン（7,281m）の雄姿が目飛び込んできた。

（文と写真：岩崎 洋）

ヒマラヤ No. 390

1. 故・野沢井歩前専務理事の合同追悼会開かれる
2. ロー・マンタンの空、遥かなり(20)〔最終回〕 高橋 照
7. 黄金のピッケル
8. 〔連載〕 日本ヒマラヤニスト名鑑（6）
10. トータル獲得標高 2003 山森欣一
23. ヒマラヤニュース〈地域ニュース・Books〉
24. 事務局日誌

故・野沢井歩前専務理事の合同追悼会開かれる

1月31日(土)午後6時半から、東京・東池袋の「かんぽヘルスプラザ東京」において、昨年秋ネパール・ヒマラヤのヒムルン・ヒマール(7,126m)で雪崩のため遭難した、本会の野沢井歩前専務理事の合同追悼会が開催された。

合同追悼会は、派遣母体のバーバリアンクラブ、海外委員長を務めた東京都山岳連盟、出身母体である立正大学Ⅱ部WV部OB会と日本ヒマラヤ協会の合同により呼び掛けられた。

会場正面には追悼会の看板の下にHAJ、立正、都岳連、スポニチの旗が貼られ、その前に1999年秋に挑んだ、チベット・カパン峰(6,717m)登山の折りの遺影が安置され、それを取り囲むように、ご家族・主催4団体・スポニチ登山学校の6本の献花が飾られていた。

当日は、本会の山森欣一理事長が司会進行を務め、全員で黙祷を捧げた後、清水修(バーバリアンクラブ代表)、森谷重二郎(東京都山岳連盟会長)、柴田耕太郎(立正大学Ⅱ部WV部OB会会長)、酒井國光(HAJ会長)がそれぞれの立場で挨拶を述べ、出席者を代表して、彼と最も多くのヒマラヤ登山を実践した岩崎洋氏(バーバリアンクラブ/本会常務理事)が追悼の言葉をのべた。

その後、ご家族を代表して実父である野沢井稔氏からご挨拶があった。次いで、スポニチ登山学校の八木原圀明校長が献杯の発声を行い、故人を偲ぶ会に移った。会場では配布された資料を片手にあちこちで全国津々浦々から集った仲間たちによって「好漢・野沢井歩」の思い出を語る姿が見られた。

会は20時45分、スポニチ登山学校・尾形好雄チーフの中締めでお開きとなり、池袋の巷で行われた二次会にも70名が集い、故人への尽きない思い出を語り合った。

『出席者』

ご家族6名、バーバリアンクラブ15名、東京都山岳連盟16名、立正大学Ⅱ部WV部OB会16名、日本ヒマラヤ協会79名、スポニチ登山学校35名、一般20名
(合計187名)

▼酒井國光HAJ会長と会場風景



▼清水修氏

▼森谷重二郎氏



▼柴田耕太郎氏

▼岩崎洋氏



▶野沢井稔氏



▲八木原圀明氏

▲尾形好雄氏

ロー・マンタンの空、遥かなり(20)

カリガンダキ左岸の地図の空白部に行く

高橋 照

さわやかに晴れ上がったタンゲ村の朝は、早くからデー村とタンゲ村のボテ達で賑わっていた。今日はいよいよ馴染みになったタンゲ村を上げる日である。一昨日ナッカリ・ダモダール・クンダから一緒に下りて来たゾプキョと、タンゲ村の連中はこの千載一遇の現金収入を逃しては大変と、デー村に対抗して立派なヤクやゾプキョを引出して来た。特に助役は見事な巨大なヤクを一頭連れ出して来た。皆キャンプの前にある隊貨を争うようにしてゾプキョに積み始めた。輸送係も引受けている隊長の菊地君は声をからしてその割り振りに大忙しだ。しかし、菊地君でも、デー村のゾプキョか、タンゲ村のゾプキョか見分けがつかない。結局十頭近くのゾプキョが仕事にあぶれてしまった。仕事にあぶれたタンゲ村の持主は、彼等の内儀さんに大声で何か罵られていたが、何を言っているのかは判らない。それでも約2時間ほどで一応混乱と喧騒はしずまった。

5月31日は出発の日にあふさわしく、晴れ上がり、気温も1カ月前よりはだいぶ暖かくなって来た。タンゲ村の大麦も、来た時はまだ20センチに満たない丈だったが、今は一人前の高さに育ち、既に

沢山の穂をつけ始めていた。あと2カ月少しでこの低地(3,300m)の大麦は黄金色に色づき刈入れの麦秋がやってくることだろう。

隊は朝の8時にタンゲ村に別れをつげた。少し増水しているタンゲ・コーラを渡り、ヤク・コーラの合流点より往路下った長い河岸段丘にとりついた。私達は段丘の上より、改めてタンゲ村とその上部に広がるタンゲの河岸段丘に別れをつげた。

荷物はゾプキョ13頭、馬5頭につみ、残りの荷物はシェルバ・ポーターによって運ばれた。今日からの私の馬は代金が良かったせいか、チュクサンより昨日例の25,000ルピーの値打ちだという馬が馬方と一緒にタンゲ村にやってきたので、その馬に乗るより仕方なかった。ところが、ナッカリ・ダモダール・クンダより私の乗って来たデー村の馬があぶれてしまったので、菊地君が百ルピーに値切って乗ることにした。チュクサンの馬は矢張り乗り心持も良く、どんな悪場でもよくこなした。とにかく、帰り車ではなく、遠くはるばるお迎えにきたのだから、私はその馬に乗らざるを得なかったわけだ。

ヤク・コーラの緩い河岸段丘には、来た時とはちがいカラガナが黄色い沢山の花をつけ、それが紺碧の青空に映えて、大きな花園を展開していた。登るにつれムスタン高原やムスタン・ヒマールはせり上って来て、タンゲの河岸段丘は足下に広がって行き、その広大な砂の台地は、無限に広がるチベット高原へと続いていた。往時ここを下った時は、ハッキリと見ることの出来なかったブリクティ山群も、今日は遥かに眺められ、私達の通ったメ・ラの大きな鞍部も望まれた。デー村に下る峠のそばの大エボシの岩山、ナマ・ゴートを囲っている小エボシの赤い山稜、タンゲ村へ下る塩の谷、み



▲タンゲ村出発の朝風景

▼ヤク・コーラとタンゲ・コーラの合流点付近



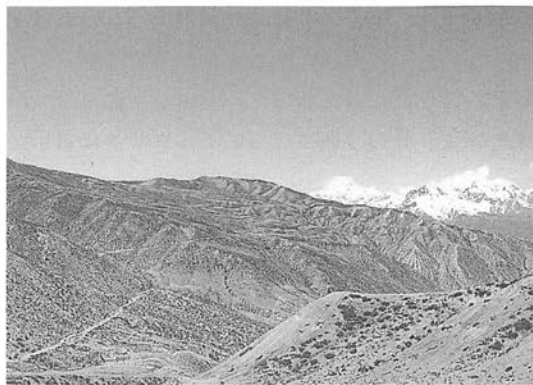
んな手にとるように眺められ私の目にしっかり焼きつけられた。そして、チュクサンよりのこの長い長い不毛の稜線をもう一度ツォーナムより辿ってみたいと思った。路傍にあるすべてがなつかしかった。

約3時間、午前10時半に4,300mの峠に着いた。下った時より上った時の方が30分近くも早かったということは、すっかりこの辺の地形になれてしまったからだろう。峠の上にはメイル・ランナーのB.B.タマンが休んでいた。タマンは隊員達への日本からの便りと、カトマンドゥよりの便りを持って来た。隊員達は、それぞれ峠の上で、サンサンと降りそそぐ陽光の下で手紙を何度も何度も読み返していた。リエゾン宛にもジョムソムのCDOからの返事を持って来たようであったが、果たしてそれがCDOからのものかどうかは私には判らない。しかし、CDOから数日前隊長名義で出したチャラン経由の帰路を申請した返事が来たのかどうかも判らなかつた。CDOの返事か、もしOKだったとしても、もうツォーナムに向かう稜線まで上り切ってしまったので、もはや無用のものになってしまっている。リエゾンからも何の反応もないのでCDOからの返信はなかったのかも知れないし、或いはあったとしても彼が握りつぶしていたのかも知れなかつた。とにかく、私達は現実に往路の長大な稜線を、又再び辿っているのである。

峠の上からは来た時と同じように、ドゥラギリ主峰やドルボの山々がひととき美しくかった。ダム・カンには雪がだいぶ多いようだった。タンゲ村はもう見納めなので、峠の上で30分も休んでしまった。

峠より山腹につけられた水平道を20分程行ったところに、露営したことのあるバの放牧地の水場に着いた。正午に近かったので、この水場で食事にし、家畜達にも腹一杯水を飲ませた。ここからは、ロー・マンタンの緑のスロープが真正面に眺められ、雪線のかなり下ったムスタン・ヒマールも紺青の空に連なっていた。今日は下のゴートには遊牧民の天幕はなく、羊群の影もなかった。

今日は長い稜線を辿って、一日でツォーナムまで行かなければならないので、長居は無用だ。昼食もそこそこにして12時には再び馬上の人となった。もう、ここよりは勝手知った道である。往時のように手さぐり状態の行進ではなく、時間的にも大体の見当はついていてた。ただ長い道のりなので、草のある処を見つけ、時々馬を休ませねばならなかつた。ゾプキョの群も草のある処を見つけると勝手に草を喰んでいた。天気は一日中良かった。しかし、アンナプルナ連山やドゥラギリ山群には、既にモンスーンの影響が始め、山塊は厚い雲につつまれていた。だが後方に見えるムスタン・ヒマールは雲一つなく、地平線の果てをつくっていた。4時近くになり、いよいよツォーナム上部の悪場の下りに差しかけた。勿論馬からは下りねばならないが、ピンボン玉から野球のボール大の礫の不安定な急斜面で慎重に下らなければならない。もしころんだとしたら、もはや止めるすべがなかつたろう。この下りは緊張の1時間だった。下の台地には私の馬が待っており、菊地君も馬に乗って待っていてくれた。頭上を見るとゾプキョの一群が、石塊をガラガラ落としながら、横隊になって真直ぐ下りてくる。コックのニマは自



▲4,300m峠からドゥラキ主峰とドルボの山々

▼稜線上の水場



分の荷をゾプキョにくくりつけて、一緒に下りて来るのが良く判る。小休後再び馬に乗り、尾根道をカリガンダキの河岸にあるチュクサンのチャングマの集落目指して下った。途中菊地君と話して、今日はチュクサンに泊ることに決めたが、4時の交信で、リエゾンのピーム・バードルが早くもツォーナムのバッチェに頑張っていて、隊はどうしてもツォーナムに天幕を張るようになっているという連絡が入って来た。ゾプキョと一緒に下りて来たコックのニマにもチュクサンには良い水場があるから、今日はチュクサンに泊るといってあるので、ゾプキョの群も私達の後からついて来た。菊地君は大声でゾプキョをツォーナムに下らせるようニマに伝えた。

私達はもうチャングマの上部まで下りて来ているので、そのままカリガンダキの河原まで下り、川原沿いにチャングマの集落を通して、ナルシン・コーラとカリガンダキの合流点に達した。カリガンダキ右岸の大削壁は相変わらず頭にのしかかるように聳えていた。そして、ナルシン・コーラの河原を上り、ツォーナムの露营地についたのは夕方の5時近かった。今晚もまた、茶色に濁った水を飲むことになったわけだ。キャンプにはタシが来ていて、昨日午後になってチュクサンに着いたそうである。キショールはそのままジョムソムまで飛ばして行ってしまったそうであった。二人ともロー・マンタンより二日で飛ばして来たそうである。

翌日の6月1日も素晴らしい快晴であった。ツォーナムのキャンプを引き払った私達は、朝の8時には出発していた。私達はリエゾンの指示通りツォー

ナムより対岸に渡り、テより来ている道に入って、チュクサンの村に入らず、バイパスを通してカリガンダキの河原に出た。バイパスといってもチュクサンの後ろにある丘を越えて行く道で、チョルテンのあるところから推して、テ（テタング）に行く入口のようだ。歩きの連中は来た時と同じように、カリガンダキ左岸の巻き道を進んで行った。私とゾプキョ13頭、馬5頭はカリガンダキの河床路をとることにした。この方が時間も短縮出来るし、駄獣にとっても高巻き道から落ちる心配がないからである。彼等にとって最高の財産であるゾプキョや馬を安全に通すためにはこの方が良い。カリガンダキの本流もだいぶ増水してきて、真黒な水が音を立てて流れていた。最初と二度目の渡河はそれ程でもなかったが、3回目、4回目の渡河は深く、河巾も20メートル以上あってなかなかの難物だった。ゾプキョ達は争って水を斜めに渡河したが、水深は腹以上あって、積荷も水につかってしまった。だがさすがに、ゾプキョは強い。しかし私の後から渡河した一頭の白い馬が、河の真中で立往生してしまった。馬方達は渡河の時は、ゾプキョや馬の荷物の上に乗って河を渡る。しかし、この馬だけは人が乗らなかったのが恐怖のあまり動けなくなってしまったのだ。ゾプキョと違い馬は人と一緒にないと安心しないのだ。ズボンをぬいだ馬方が馬に近ずき、やっとのことで手綱をひろい上げて、無事この馬を引上げた。ゾプキョと違い人の乗っていない馬は流されはじめると立ったまま進むことが出来なくなるので、そうなら万事休すである。

河床の巾も広くなり、流れも何本かの浅瀬にな



▲カリガンダキのゾプキョの渡河

るじぶん、左岸の河岸段丘上にタンベの村が現れて来た。9時20分ごろであった。来る時と違い、今度はタンベの村を下から見上げることになったわけだ。

タンベよりはすぐケハルンパの合流点に出た。ケハルンパは未だあまり水は流れていなかった。合流点の左岸にある大岩壁には、無数の穴居民族の住った跡があった。水面より2〜30メートル上部なので、それ程古いものではなさそうだ。それとも、この辺だけが水による浸蝕が遅いのかも知れない。しかし、2カ所ほど材木で天井をささえている岩穴があるので、人の住んでいた痕跡を証拠立てている。このようにムスタン地方随所に見られる穴居跡は一体何を物語っているのであろうか。チベット地方によりその昔ネパールに移住してきた北方系の民族には間違いないと思うが、これを調べて行ったなら、きっと興味ある問題にぶつかるに違いない。穴居跡は4,000m台の高所より、カリガンダキの3,000m台の低所まで、ロー地方、カク地方のいたるところに散見出来るが、その一番下方がタック・コーラまでであるということは面白い。

ケハルンパの合流点よりは、ティリー・ガウンに一寸寄り道し、一時間後の11時にはカグ・ベニの集落に入った。カグ・ベニには徒歩部隊はまだ誰も着いていないようだった。

私は集落の中で、5頭の馬を連れてくる馬方に私の乗馬を渡し、昼食が終わったらカグ・ベニ入口のバッチィに止めておくように命じた。これから少なくとも1時間は休憩するので、私の馬も他の馬同様草を喰べさせてやりたかったからである。その時、私の馬方は途中で会ったカッチャルのキャラバン隊と長話しをしていたので、2、30分遅れたからである。

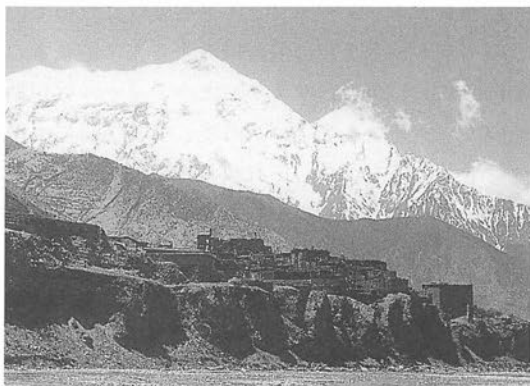
バッチィで昼食を喰べていると、私の馬方が大声をあげて泣きながら、バッチィを一軒一軒しらみつぶしに歩いていた。聞くと私の馬が何処に行ったのかいないそうなのである。

私は、

「ホラ、5頭の馬の馬方に渡したよ。名前は知らないがね」

「奴の馬のいるところに、うちの馬がいなくて

▼カク・ベニとニルギリ北峰



す。あの馬がいなくなったら、うちのサーブに何てお詫びしたら良いか判りません。25,000ルピーの馬ですから」

「狭いカク・ベニのことだ。捜せばどっかに居るよ」彼は捜しに行ったが、再び帰って来て、今度は泣きじゃくりながら、

「何処にもいないんですよ。家の中までさがしました。いい馬なので、きつとかっぱらわれたんです」

「馬鹿言うなよ。そんなことをしたって、すぐばれるじゃないか。殊によったら馬は一人で家に帰ったんじゃないかね」馬方は思い当たったのか、いきなり来た方角に走り出して行った。そして30分程たってから馬を連れ戻って来た。

「馬の奴、ティリー・ガウンの前の河原をチュクサンの方へ走っているの、やっとつかまえて来ました」

「馬鹿だなあー。お前が馬から目を放したからいけないんだぞ。馬方というのはそれが務めなんだ。俺はもう馬がいなくなっても平気だからね。これから2、3時間もあるけばジョムソムだよ」

それからのジョムソムまでの約2時間は、手綱こそ持たなかったが、馬方は私にピッタリくっついていていた。

ジョムソムでは、チェックポストの裏側を通して、飛行場前のアラカ・ホテルに入ったのは午後2時ちょっと過ぎであった。

その夜はエベレスト登頂者のアン・チョタレーにしばらくぶりで会ったので、大いに皆と一緒にロキシーを汲み交わした。彼は今、陸軍のインスペクターで少佐の待遇を受けている。一、兩日中に軍のヘリコプターが来るので、カトマンドゥに

帰れるそうである。

私達もチャーター・フライトを要求したので、このアラカ・ホテルに飛行機の来るまで泊まることにした。しかし、リエゾンとキショールは定期便のガバーメントを手に入れて、6月3日にカトマンドゥに飛んだが、それよりは定期便もチャーター・フライトも来なくなってしまった。雨期が

やって来たのである。この乾燥地帯のジョムソムにも、それから毎日のように雨が降り続いた。

そして、6月5日には飛行機はあきらめ、荷物をカッチャルに積んで、4日後の6月9日の午後2時半ごろ、ポカラのヒマラヤン・ホテルに戻り、このムスタンの旅は終わったのであった。

〔長い間ご愛読ありがとうございました。〕



◀ ジョムソムのホテル・アラカ

まだ、間に合う!! パキスタン登山

パキスタンの登山申請が、今からでも充分に間に合う。しかも、登山料は、半額である。更に、6,500m以下の山に関しては、トレッキングと同じ条件で登山が出来る。(登山料不要ということである。しかし、制限地域に関しては、入山料の50\$が必要である。これは、トレッキング規約集による。)

パキスタンの登山申請は、規約集によると「登山する前年の12月末日までに申請すること。」となっているが、2001.9.11以降パキスタンに訪れる観光客・登山者の激減から、申請期限が緩和されている。

今年も「パキスタンに入国の1ヶ月前までに申請すれば、許可を発行する。」と観光省からの連絡が入った。

これから計画を立てる隊は、まず先に隊長名で申請して、その後にメンバーを集めるという方法

をとれば良いかと思う。

また、先に申請をして、その後に登山料を振り込むので(許可証は、登山料が振り込まれてからでないと発給されない。)キャンセルする場合もお金の無駄がなく安心である。

ギリギリ1ヶ月前に申請の登山隊は、登山料の振込みと申請を同時進行で行なわなければならない。

この春から各旅行社のパキスタン・ツアーが再開された。9.11以降、危険度の問題から、なかなか団体旅行を出してなかった。

そのような点から、この夏のパキスタン便はかなり混雑が予想されるので、航空券の確保を早めに行なう必要があるだろう。(参考までに。中国とパキスタンの間に航空協定が新たに結ばれ、イスラマバード／上海便も就航される。日本からのルートとしては、新しい1本が取れるということである。)

黄金のピッケル

第13回を迎えたピオレ・ドール賞の式典が2月6日にフランス・グルノーブルで行なわれた。

フランスの山岳雑誌モンターニュがスポンサーとなって、毎年、前年に行なわれた優秀なアルパインクライミングを表彰し、金色のピオレを受賞者に送るこの賞の特色は、ノミネートされた者（通常5パーティ以上）が、一堂に集まりノミネートされた登山を会場で報告して、それを観た後に、審査員が一組の受賞者を発表するという、映画祭と同じ様なイベント、フェスティバルとして、運営されているところにある（例年1,2パーティは欠席）。今年は7組がノミネートされ、前号で紹介したスプツェ東峰南稜を登った、ババノフ=コシュレンコペアが受賞し、グリベル社製の黄金のピオレを受け取った。

フランスでも1980年代を頂点に、「より高く、より困難を求めて！」といったビッククライムは影を潜めてしまったようで、（言い方を変えると、80年代は狂っていた！のだそうだ。）この賞の目的は、アルパインクライムの奨励にある。したがって受賞のレベルは年によって大きく異なるのは仕方が無い。第1回受賞者のシュトレムフェリは、固定ロープを用いた隊の受賞には疑問を述べており、（2000年フーバー兄ら）今回のババノフらの受賞に対して疑問が出る事は間違いない。

本年のノミネートは以下の通り。

I・C・ラファイユ（フランス）

ダウラギリ I 峰(8,167m)北東稜を5月。ナンガ・パルバット(8,126m)西壁新ルートから6月。ブロード・ピーク(8,051m)西稜を7月に、何れもアルパインスタイルで登った。（ハットトリック）

S・ベノイスト、P・グラロン=ラバズ（フランス）

トレイ・サガール(6)北壁新ルートの開拓によりノミネートされた。「片道切符」と名づけられたルートは、ハンガリールート左手より取り付け、頂上岩壁は1997年オーストラリアルートを辿る。

A・クリュエト、A・ジョルダニ

チャクララフ東峰6,001m南壁新ルート
6,126m東壁新ルート

I・パーネル、K・クール、J・ヴァルコ

アンナプルナ III 峰(7,555m)南東稜

スロヴェニアが1995、2000年に挑んで敗退したルートを、残置されたロープを使ったが、固定キャンプを設けずに登った。

M・トマスゼウスキー、D・カスシルコウスキー、K・ベルジンスキー

CITADEL/アラスカ東壁に、カプセルスタイルを用いて17日間かけて登攀した。1,200m□-5.10b, A4

S・マカリス、O・サンダース、T・ターナー

CITADEL/アラスカ東壁の氷のクローワールを登りで2ピバーク、下降を含めると3日半で登った。
1,200m, 21p, □-W16+

審査員のメンバーは、審査委員長にJ・トロワイエ、GHMのヒューベルト・ギオト、レスリエ・フシュコ、イタリア山岳会からアドリアーノ・ファヴロ、スポンサーであるモンターニュ・マガジン編集長ガイ・シュウムルエウリ、昨年、スークニャン北壁でこの賞を受賞したM・ファウラーとP・ラムズデン。これまでの受賞は以下の通りである。

- | | |
|-------|--|
| 1991年 | カンチェンジュンガ南峰(8,476m)南稜
A・シュトレムフェリ=M・プレゼリ |
| 1992年 | パイネ南峰東壁フランス |
| 1993年 | フランス山岳会ユース高峰登山隊 |
| 1994年 | セロ・トーレ、F・マーシグニ、パーキン |
| 1995年 | アラスカ・Mtブラッドレー |
| 1996年 | アマ・ダブラム(6,812m)北東壁
スロベニア T・フマル=V・フルラン |
| 1997年 | マカルー(8,463m)西壁
ロシア・エカデリンブルグ隊 |
| 1998年 | トレイ・サガール(6,904m)北西壁
A・リンブレード、A・ウィンプ |
| 1999年 | アラスカ・ブルケットニードル |
| 2000年 | シブリン北稜
T・フーバー、I・ウォルプ |
| 2001年 | メルー中央峰(シャークスフィン)
V・ババノフ単独 |
| 2002年 | スークニャン北壁
M・ファウラー、P・ラムズデン |

（記：中川 裕）

加藤喜一郎 (KATO Kiichiro)

1920.11.29～1987.12.10 神奈川県鎌倉市生れ。
1928慶応義塾普通部4年生の時、ラグビー部員でありながら冬期八ヶ岳山行に参加。同年慶応義塾法学部予科に入学し山岳部に入る。戦前は積雪期北アルプスで経験を積み43年1月に槍ヶ岳北鎌尾根を完登。43年繰上げ卒業で土浦航空隊から艦上爆撃機のパイロットとなる。戦後は46年1月に穂高山行から復帰。日本が世界に14座ある八千メートル峰の内、唯一初登頂したマナスル(8,163m)登山に3度隊員となった。最初は53年の第一次隊(三田幸夫隊長ら15名)で、6月1日、山田二郎、石坂昭二郎と7,750mまで到達したが時間切れのため登頂を断念した。54年の第二次隊(堀田彌一郎隊長ら14名)は、地元民の抵抗で目標をガネッシュ・ヒマール主峰(7,429m・現在はヤンラ・カンリ)に変更。5月13日、村木潤次郎、山崎英雄、松田雄一と国境稜線の6,350mに到達したが、その上部は技術的に困難であり登頂を断念した。56年の第三次隊(楨有恒隊長ら12名)は、5月9日に今西壽雄(42)隊員とサーダーのギャルツェン・ノルブが悲願の初登頂に成功。11日、加藤は二次隊として日下田実(25)と第二登に成功した。59年(秋)慶応大学がダウラギリⅡ(7,751m)に派遣した偵察隊(隊長以下4名)を率いて東面を偵察し、ヒマルチュリ(7,893m)西面に登路を発見した。病死。著書に「山に憑かれた男」(S32年)がある。

廣島三朗 (HIROSHIMA Mitsuo)

1943.3.28～1997.8.20 東京都八王子市生れ。小学生の頃から始まった奥多摩歩きは中学生になっても続いた。都立町田高校に入学し多摩恋鋒クラブに所属したが、クラブの分裂を機に高校2年生の時に「高校生だけ」の「秀峰登高会」を設立する。高校時代は谷川岳、八ヶ岳、穂高岳、南アルプスなどで岩登り、縦走の経験を積む。1967年夏、劔岳源治郎尾根に新ルート開拓中、墜落負傷。68年、駒沢大学に入学し将来のヒマラヤ登山を視野に入れて山岳部に所属し秀峰登高会と二股をかける。68年暮れから69年正月には小窓尾根から劔岳

の登頂に成功したが悪天候に挟まり閉じ込められた。初めてのヒマラヤは、71年(春)秀峰登高会を中心として派遣された八王子ヒマラヤ登山隊(三好勝彦隊長ら7名)の副隊長として県立高校を退職して参加、ガンガプルナ(7,455m)の北西稜の初登攀を目指したが約7,000m地点で登頂を断念した。帰途ヒンズークシュに初見参。特例として復職が認められた。73年(春)神奈川県山岳連盟がローツェ(8,516m)南壁に派遣した登山隊(内田良平隊長ら9名)に参加したが7,300mで登頂を断念した。帰途アンナプルナ山群を一周し再びヒンズークシュからフンザに入る。74年(夏)ルプガール・サール(7,200m)偵察。ヒンズークシュ・カラコルム会議の運営に係わり、75年(夏)K2に偵察隊(隊長以下5名)を率いて入山、東面6,000mまで到達。77年(夏)K2(8,611m)に派遣された日山協隊(新貝勲隊長以下47名)の登攀リーダーとして高校を退職して参加、第三次隊として8月9日登頂に成功した。(日本人八千メートル登頂者25番目)。78年(夏)ヤシンからツイ・アン(4,500m)以降毎年のように訪バシ辺境トレッキング実施。87年(夏)シャハーン・ドク(6,237m)の初登頂を目指す登山隊(本多勝一隊長ら6名)の副隊長として参加したが日数不足で登頂を断念しトニーリー(5,081m)に登頂した。89年(夏)神奈川県高体連隊(原田征史隊長ら26名)のC隊リーダーとしてヒンズークシュのバフシュタロ谷に入山。90年(夏)ディラン(7,266m)偵察。91年(夏)スパンティーク(7,027m)偵察。92年(夏)神奈川県ヒマラヤ登山隊(隊長以下16名)を率いてスパンティーク(7,027m)に挑み、南東稜から全員登頂を成功させ、以後日本隊がこの山に押し掛ける切っ掛けを作った。93年(夏)ヤルフーン川からボロゴル峠、カランパール峠、チリンジ峠。94年(夏)ボロゴル峠、カランパール峠、ダルコット峠。95年(夏)カランパール峠、チアンタル氷河、ダルワザ峠。96年(夏)チョゴリザ(7,656m)偵察。97年(夏)K2登頂の20周年記念登山隊(隊長以下16名)の隊長としてチョゴリザを目指したが、不許可となり目標をスキルブルム(7,360m)に変

更。8月17日、中込清次郎、土森譲、古関正雄、鎌田実、松田謙介、初鹿裕康、菊田佳子と共に登頂に成功、しかし、BCを撤収する20日午前1時半頃BCが懸垂氷河雪崩の襲撃を受け、永澤茂、中込、菊田、土森、原田達也と共に遭難死亡。遺体は後日収容された。80年代初頭日山協海外登山委員長を務め、日本のヒマラヤ登山の裏方も務めた。共に遭難した原田達也が『彼は自分の興味のない世界や物事に対しては、徹頭徹尾無視する態度を平気でとれる男だが、チョットでも興味が湧くとすぐに憑かれてしまうタイプ』と評しているように、付き合い方で評価が分かれるが、70年代～90年代の日本登山界では最も有名な存在であった。イスラーム聖者学会代表、著書に「K2 登頂 幸運と友情の山」(S53年)、「ヒンズークシュ 真ただ中」(S54年)、「地図と地形の読み方」(1985年)、「地球の歩き方 パキスタン編」(1988年)、訳書に「オクサスとインダスの間に」(1985年)、報告追悼集に「スキルブルム7360 夢は白き氷河の果てに」(1998年)がある。

嶋満則 (SHIGI Mitsunori 旧姓・長崎)

1945.7.23～1981.7.23 秋田県北秋田郡生れ。1964年県立能代工業から東京の共同印刷に入社、山岳部に入り登山を始める。谷川岳で岩登りを始め、68年、GHMJに入会。70年6月谷川岳一ノ倉沢衝立岩ミヤマルート第二登。7月唐沢岳幕岩左方ルンゼ初登攀、一ノ倉沢滝沢ドーム右稜単独初登攀。71年7月黒部丸山東壁扇形ハング初登攀。10月穂高岳屏風岩青白ハング・ディレッテシマ初登攀。72年(夏)渡欧し、ブレチュール西壁ジョン＝ハーリンルート第二登、ドリュ西壁マニョーヌルート単独日帰り。74年嶋秋子と結婚。75年アルパインガイド協会会員となる。76年秋子と渡欧し、2月モン・ブラン、ブレンバ・フェース・マジョールルート冬期初登攀(単独)、3月ボワールルート冬期単独初登攀(冬期第二登)。78年秋子と渡欧し3月マッターホルン北壁(秋子は冬期女性初登攀)。79年1月秋子とブレンバ・フェース・グラン・クーロワール初登攀。80年2月モン・ブラン、フレネイ中央岩稜冬期単独初登攀(冬期第三登)。81年1月秋子とモン・ブラン、ブトレ

イ大岩稜(グラン・ピリエ・ダングル)北壁ボナッティ＝ザッペリート冬期第三登。81年(夏)京都カラコルムクラブが中国のコングール(7,719m)に派遣した登山隊(高田直樹隊長ら21名)に参加。同峰の優先権はイギリスにあったため、日本隊はムスターグ・アタ(7,546m)で高所順応活動を行った。嶋は6月29日に登頂し、頂上から寺西洋治、松見新衛とスキー滑降をした。この間にイギリス隊がコングール峰の初登頂に成功した。日本隊は2チームに分かれ登山を開始。嶋は寺西、松見と北稜をアルパイン・スタイルで登攀することになっていた。7月16日、北稜取り付き3,700mにBCを設け、3人は20日に9日間分の食糧を持って登攀を開始した。23日午前11時頃北稜上部に広がる大雪壁の約6,500m地点にいる姿を確認された後、3人は消息を絶ち行方不明となった。共著に「ザイルの二人」(1983年)がある。

福本誠志 (FUKUMOTO Masashi)

1973.12.22～2001.10.14 群馬県前橋市生れ。1989年、県立前橋東高校に入学し山岳部に所属し登山を開始する。地元群馬の山、南アルプスで登山経験を積む。93年(春)西鹿児島駅から北海道宗谷岬まで縦断。同年10月、群馬ミヤマ山岳会に入会、岩登りの洗礼を受けた。97年(夏)群馬県山岳連盟がカラコルムに派遣した連続登山隊(名塚秀二隊長ら20名)に参加、7月16日、岩崎洋らとブロード・ピーク主峰(8,051m)に登頂(日本人八千メートル峰登頂者282番目)。続いてガッシャーブルムII(8,035m)に挑戦したが時間切れのため連続登頂は成らなかった。99年(秋)群馬県山岳連盟隊(名塚秀二隊長ら5名)に参加、10月29日、北東稜からシシヤパンマ主峰(8,027m)の登頂に成功した。続いて同隊で冬期マナスル(8,163m)に通常ルートから挑戦したが7,100mで登頂を断念した。2001年正月には大山洋次、剣持典之と剣岳ハツ峰を登攀。同年(秋)群馬ミヤマ山岳会の星野龍史、品川幸彦とダウラギリI(8,167m)東壁にアルパイン・スタイルで挑戦したが、10月14日午前10時頃6,400～6,500m地点に登攀中の姿を確認された以降3名共消息を絶った。追悼集に「軌跡ー白き峰ダウラギリへー」(平成15年)がある。

トータル獲得標高 2003

山森欣一

2003年は、春からアメリカによるイラク爆撃と突如発生した中国を中心とした『新型肺炎SARS』の影響で、カラコルム登山は激減し、チベットも一時入域禁止となり、ネパールは慢性的なマオイスト問題で揺れた。

それでも、エヴェレスト、ナンガ・パルバット、ヌン初登頂50周年の節目であったため、世界最高峰には高所遠足組が大挙して押し掛ける異常現象が起きた。最高峰の最年少・最高齢、回数稼ぎ競争に加えて、中国側では「アマチュア登山家」を登頂させるというイベントも加わり、最高峰周辺だけがオーバーヒートした。

その中であって日本隊は、標高六千メートル以上の峰35座に64隊277名を送り込んだ。これは人数的には前年に比べて14%増えたことになる。また、これまで入山者数でトップを走っていた中国がSARS問題でネパールに首位の座を明け渡す結果となった。

2003年は正月早々からイムジャ・ツェで転落死亡事故が発生し、1968年以降36年間連続して死亡事故発生という不名誉な記録を更新したが、8月にはパサーでクレバス転落、10月にはヒムルン・ヒマールで雪崩、チョラ・ツェで転落事故が続き、4名が死亡する結果となった。

八千メートル峰では、明治大学隊がアンナプルナ南壁イギリスルートから登頂に成功し、東京農業大学隊がローツェからサガルマータの連続登頂に成功した。また、冬期ローツェ南壁の雪辱を目指したJAC東海隊の試みは266メートルを残して断念した。

七千メートル峰では、ネパールと中国にあるフンチ(7,036m)をネパール側から大阪隊が春に初登頂した。秋には長野隊が中国側から挑戦したがあと200メートルで登頂を断念した。

35,000m（5座登頂）を越えた岳人たちの概要

(氏名のごジックは女性 ×印は死亡)

2003年12月31日現在

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
1	近 藤 和 美 (143,292m) 19座 1941.11. 生 (62歳) 初登頂1座	a. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1984. 7. 31	九 山 同 人	ツェト		1
		b. レーニン	7,134	K	1984. 8. 6	九 山 同 人	ラズジ		
		c. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1986. 8. 3	九 山 同 人	ボロド		
		d. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1986. 8. 9	九 山 同 人	ツェト		
		e. レーニン	7,134	K	1986. 8. 15	九 山 同 人	ラズジ		
		f. レーニン	7,134	K	1988. 8. 14	労 山	ラズジ		
		g. ハン・テングリ	7,010	H	1989. 8. 6	労 山	ソロマ		
		h. ハン・テングリ	7,010	K	1991. 8. 2	労 山	ボグレ		
		i. ボベータ	7,439	K	1991. 8. 14	労 山	ヴァジ		
		j. チョー・オユー	8,201	C	1992. 9. 20	カトマンズクラブ	北西面	50歳と302日	
		k. シシャパンマC	8,008	C	1994. 5. 18	労 山	北東稜	52歳と177日	
		l. ヌン	7,135	I	1995. 8. 16	労 山	北西稜		
		m. ダウラギリI	8,167	N	1995.10. 6	労 山	北東稜	53歳と318日	
		n. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1996. 8. 14	労 山	ツェト		
		o. リスム	7,050	C	1997. 5. 10	労 山	東 稜	初登頂	
		p. チョモランマ	8,848	C	1998. 5. 22	労 山	北 稜	56歳と181日	
		q. ナンガ・パルバット	8,126	P	1999. 7. 29	労 山	西 面	57歳と249日	
		r. ブロード・ピークM	8,051	P	2000. 7. 30	労 山	西 稜	58歳と250日	
		s. ガッシャーブルムII	8,035	P	2003. 8. 1	労 山	南西稜	61歳と252日	

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
2	岩 崎 洋 (118,320m) 16座 1960. 2. 生 (43歳) 初登頂2座 トラバース1座	a. マモストーン・カンリ I	7,526	I	1984. 9. 15	H A J	北東稜		3
		b. カルジャン N	7,216	C	1986. 10. 14	H A J	西 壁	初登頂	
		c. ピラミッド・ピーク M	7,123	I	1993. 4. 24	H A J	北東稜	初登頂	
		d. ティリッチ・ミール M	7,706	P	1995. 7. 7	バーバリアン	西 稜		
		e. サトバント M	7,075	I	1995. 9. 13	雪 と 岩 の 会	北 稜		
		f. ディラン	7,257	P	1996. 7. 24	バーバリアン	西 稜	下部初登攀	
		g. ムスターグ・アタ M	7,546	C	1996. 9. 14	浪	西 稜		
		h. ブロード・ピーク M	8,051	P	1997. 7. 16	群馬県山岳連盟	西 稜		
		i. ムスターグ・アタ M	7,546	C	1997. 9. 29		西 稜		
		j. サイバル	7,031	N	1998. 10. 7	バーバリアン	北 面	下部初登攀	
		k. スパンティーク	7,027	P	1999. 8. 17	バーバリアン	南東稜		
		l. ナムナニ	7,694	C	1999. 10. 25	H A J	北 面	西面へ下降	
		m. スパンティーク	7,027	P	2000. 8. 15	H A J	南東稜		
		n. アピ	7,132	N	2001. 10. 8	バーバリアン	北 面		
		o. ガッシャーブルム I	8,068	P	2002. 8. 5	H A J	北 稜		
		p. パスー E	7,295	P	2003. 8. 18	H A J	東 面		
3	田 辺 治 (117,660m) 15座 1961. 1. 生 (42歳) 初登頂3座 冬期 1座 ハット・トリック 1回	a. ラブチェ・カン	7,367	C	1987. 10. 26	H A J	西 稜	初登頂	3
		b. ガッシャーブルム II	8,035	P	1990. 7. 26	イエティ 同人	南西稜		
		c. コルジュネフスカヤ	7,105	T	1991. 7. 17	東海山岳会	ツェト		
		d. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1991. 7. 29	東海山岳会	ボロド		
		e. レーニン	7,134	K	1991. 8. 5	東海山岳会	ラズジ		
		f. ブロード・ピーク M	8,051	P	1993. 8. 24	東海山岳会	西 稜		
		g. チョー・オユー	8,201	C	1993. 10. 11	群馬県山岳連盟	北西面		
		h. サガルマータ	8,848	N	1993. 12. 20	群馬県山岳連盟	南西壁	ハット・トリック	
		i. ギャジ・カン	7,038	N	1994. 10. 7	信 州 大 学	西 稜	初登頂	
		j. マカルー I	8,463	C	1995. 5. 21	J A C	東稜下	初登攀	
		k. ラトナ・チュリ	7,035	N	1996. 10. 14	信 州 大 学	西 稜	初登頂	
		l. K 2	8,611	P	1997. 7. 19	J A C 東海	西壁上	部から初登	
		m. チョー・オユー	8,201	C	2001. 10. 9	J A C 東海	北西面		
		n. ガッシャーブルム I	8,068	P	2002. 8. 5	H A J	北 稜		
		o. シシャバンマ C	8,008	C	2003. 10. 14	J A C 東海	北東稜		
4	×山田 昇 (115,804m) 14座 1950. 2. 生 初登頂2座 冬期 3座 無酸素2座 ハット・トリック 2回	a. ダウラギリ I	8,167	N	1978. 10. 21	群馬県山岳連盟	南東稜		2
		b. カンチェンジュンガ M	8,586	N	1981. 5. 9	H A J	南西面		
		c. ランタン・リ	7,205	N	1981. 10. 10	H A J	南西稜	初登頂	
		d. ダウラギリ I	8,167	N	1982. 10. 18	カモシカ 同人	北西稜	初登攀	
		e. ローツェ	8,516	N	1983. 10. 9	カモシカ 同人	西 面	日本人初登	
		f. サガルマータ	8,848	N	1983. 12. 16	カモシカ 同人	南東稜	冬期第三登	
		g. マモストーン・カンリ I	7,526	I	1984. 9. 13	H A J	北東稜	初登頂	
		h. K 2	8,611	P	1985. 7. 24	H A J	南東稜	O ₂ レス	
		i. サガルマータ	8,848	N	1985. 10. 30	植村直己物語	南東稜	O ₂ レス	
		j. マナスル	8,163	N	1985. 12. 14	カモシカ 同人	北東面	冬期第二登	

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
	アルパイン・ スタイル3座 トラバース1座	k. アンナプルナ I l. チョモランマ m. シシャパンマ M n. チョー・オユー	8,091 8,848 8,027 8,201	N C C C	1987. 12. 20 1988. 5. 5 1988. 10. 24 1988. 11. 6	群馬県山岳連盟 J A C H A J H A J	南 壁 北～南 北東稜 北西面	冬期初登攀 初縦断 ハット・トリック	
5	尾 形 好 雄 (85, 583m) 11座 1948. 7. 生 (55歳) 初登頂4座 冬期 1座	a. ヒマルチュリ W b. ヤルン・カン c. マモストーン・カンリ I d. ギャラ・ペリ e. リモ I f. ピラミッド・ピーク M g. チョー・オユー h. サガルマータ i. サトバント M j. ガッシャーブルム II k. ブロード・ピーク M	7,540 8,505 7,526 7,294 7,385 7,123 8,201 8,848 7,075 8,035 8,051	N N I C I I C N I P P	1978. 5. 7 1981. 5. 9 1984. 9. 15 1986. 10. 31 1988. 7. 28 1993. 4. 24 1993. 10. 8 1993. 12. 22 1995. 9. 13 1997. 7. 8 1997. 7. 20	雪 と 岩 の 会 H A J H A J H A J H A J H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 雪 と 岩 の 会 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	南西稜 南東面 北東稜 南 稜 南 壁 北東稜 北西面 南西壁 北 稜 南西稜 西 稜	初登頂 日本人初登 初登頂 初登頂 初登頂	5
6	名 塚 秀 二 (83, 442m) 10座 1954. 11. 生 (49歳) 冬期 1座	a. サガルマータ b. チョゴリ c. カンチェンジュンガ M d. チョー・オユー e. サガルマータ f. ガッシャーブルム I g. ガッシャーブルム II h. シシャパンマ M i. ブロード・ピーク M j. ダウラギリ I	8,848 8,611 8,586 8,201 8,848 8,068 8,035 8,027 8,051 8,167	N C I C N P P C P N	1985. 10. 30 1990. 8. 9 1991. 5. 24 1993. 10. 8 1993. 12. 18 1997. 7. 7 1997. 7. 14 1999. 10. 29 2000. 7. 29 2001. 10. 11	植村直己物語 横浜山岳協会 H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 前橋山岳会 群馬ミヤマ山岳会	南東稜 北西壁 北東稜 北西面 南西壁 北 稜 南西稜 北東稜 西 稜 北東稜	下部初登攀 冬期初登攀	6
7	山 本 篤 (80, 731m) 9座 1962. 10. 生 (41歳) 初登頂1座	a. ラカボシ E b. シシャパンマ M c. チョー・オユー d. サガルマータ e. ナムチャ・バルワ f. マカルー I g. K 2 h. マナスル i. リャンカンカンリ j. アンナプルナ I	7,010 8,027 8,201 8,848 7,782 8,463 8,611 8,163 7,535 8,091	P C C N C C P N C N	1987. 7. 3 1988. 10. 24 1988. 11. 6 1989. 10. 13 1992. 10. 30 1995. 5. 21 1996. 8. 14 1997. 10. 8 1999. 5. 10 2003. 5. 16	明 治 大 学 H A J H A J カトマンズクラブ J A C J A C J A C 明 治 大 学 明 治 大 学 明 治 大 学	北 稜 北東稜 北西面 南東稜 南 壁 東 稜 南南東稜 北東面 北 稜 南 壁	初登頂 下部初登攀	10
8	小 西 浩 文 (77, 274m) 10座 1962. 3. 生 (41歳)	a. コルジェネフスカヤ b. イスモイル・ソモニ c. シシャパンマ C d. レーニン e. ハン・テングリ f. ブロード・ピーク M	7,105 7,495 8,008 7,134 7,010 8,051	T T C K H P	1982. 7. 29 1982. 8. 5 1982. 10. 10 1988. 8. 14 1989. 8. 6 1991. 7. 30	高 山 研 究 所 高 山 研 究 所 高 山 研 究 所 イ ー ス ト 群 馬 ミ ヤ マ バイネ／スキー	ツェト ボロド 北東稜 ラスジ ソロマ 西 稜	20歳	7

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
		g. ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1993. 7. 31	バイネニアソブ	南西稜		
		h. チョー・オユー	8,201	C	1995. 5. 9	ガ イ ア	北西面		
		i. ダウラギリⅠ	8,167	N	1997. 5. 31	ガ イ ア	北東稜		
		j. ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	1997. 7. 16	J A F M A	北 稜		
9	田部井 淳 子 (76,360m) 10座 1939. 9. 生 (64歳)	a. アンナブルナⅢ	7,555	N	1970. 5. 19	女子登攀クラブ	南西面	女性初登頂 56歳と363日	8
		b. サガルマータ	8,848	N	1975. 5. 16	女子登攀クラブ	南東稜		
		c. シシャバンマM	8,027	C	1981. 4. 30	女子登攀クラブ	北東稜		
		d. コルジュネフスカヤ	7,105	T	1985. 7. 28	女子登攀クラブ	ツェト		
		e. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1985. 8. 7	女子登攀クラブ	ボロド		
		f. レーニン	7,134	K	1985. 8. 15	女子登攀クラブ	ラスジ		
		g. ハン・テングリ	7,010	H	1994. 8. 12		ボグレ		
		h. チョー・オユー	8,201	C	1996. 9. 10	国 際 公 募 隊	北西面		
		i. ボベータ	7,439	K	1999. 8. 11		ヴァジ		
		j. ムスターグ・アタ	7,546	C	2001. 8. 12		西 稜		
10	谷 川 太 郎 (74,661m) 9 座 1967. 6. 生 (36歳)	a. ブロード・ピークM	8,051	P	1991. 7. 12	東京農業大学	西 稜	下部初登攀 初登攀	20
		b. ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1993. 7. 22	東京農業大学	南 稜		
		c. マカルーⅠ	8,463	C	1995. 5. 22	J A C	東 稜		
		d. ジンミゲラ・チュリ	7,350	N	1995. 10. 16	東京農業大学	西 稜		
		e. K 2	8,611	P	1996. 8. 12	J A C	南南東		
		f. カンチェンジュンガM	8,586	N	1998. 5. 15	J A C	北 面		
		g. チョー・オユー	8,201	C	1999. 9. 28		北西面		
		h. ローツェ	8,516	N	2003. 5. 10	東京農業大学	西 面		
		i. サガルマータ	8,848	N	2003. 5. 22	東京農業大学	南東稜		
11	×野沢井 歩 (74,327m) 10座 1964. 8. 生 トラバース1座	a. ヌン	7,135	I	1992. 8. 13	H A J	西 稜	下部初登攀 西面下降	9
		b. ダウラギリⅠ	8,167	N	1993. 10. 6	ベルニナ山岳会	北東稜		
		c. プモ・リ	7,161	N	1994. 10. 21	バーバリアン	南 稜		
		d. ティリッチ・ミールM	7,706	P	1995. 7. 7	バーバリアン	西 稜		
		e. サイパル	7,031	N	1998. 10. 7	バーバリアン	北 面		
		f. スパンティーク	7,027	P	1999. 8. 15	バーバリアン	南東稜		
		g. ナムナニ	7,694	C	1999. 10. 25	H A J	北 面		
		h. ニンチン・カンサ	7,206	C	2001. 8. 15	H A J	西 稜		
		i. アピ	7,132	N	2001. 10. 6	バーバリアン	北 面		
		j. ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	2002. 8. 5	H A J	北 稜		
12	尾 崎 隆 (67,483m) 8 座 1952. 9. 生 (51歳) 冬期 1 座	a. ブロード・ピークM	8,051	P	1977. 8. 8	愛知学院大学	西 稜	第二登	11
		b. チョモランマ	8,848	C	1980. 5. 10	J A C	北西壁	下部初登攀	
		c. マナスル	8,163	N	1981. 10. 12	イエティ同人	北東面		
		d. ローツェ	8,516	N	1983. 10. 9	カモシカ同人	西 面	日本人初登	
		e. サガルマータ	8,848	N	1983. 12. 16	カモシカ同人	南東稜	冬期第三登	
		f. カンチェンジュンガM	8,586	N	1984. 5. 19	J A C	南西面		
		g. シシャバンマC	8,008	C	1986. 9. 10	国 際 隊	北東稜		
		h. マカルー	8,463	N	2001. 5. 12	ニュージーランド	北西稜		

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
13	×品川 幸彦 (66,842m) 9 座 1968. 2. 生	a. レーニン b. ハン・テングリ c. コルジェネフスカヤ d. イスモイル・ソモニ e. ハン・テングリ f. ボベータ g. ムスターグ・アタM h. ガッシャーブルム I i. ガッシャーブルム II	7,134 7,010 7,105 7,495 7,010 7,439 7,546 8,068 8,035	K H T T H K C P P	1992. 8. 12 1993. 8. 4 1994. 7. 28 1994. 8. 4 1995. 7. 30 1995. 8. 10 1996. 8. 13 1997. 7. 7 1997. 7. 14	 H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	ラズジ ソロマ ツェト ボロド ソロマ ヴァジ 西 稜 北 稜 南西稜		12
14	三 谷 統一郎 (65,482m) 8 座 1958. 3. 生 (44歳) 初登頂 1 座 トラバース 1 回	a. アンナプルナ・ダクシン b. ダウラギリ I c. カンチェンジュンガM d. チョー・オユー e. サガルマータ f. ナムチャ・バルワ g. マナスル h. ローツェ	7,219 8,167 8,586 8,201 8,848 7,782 8,163 8,516	N N N N N C N N	1978.10.16 1982.10.17 1984. 5. 20 1985.10. 3 1989.10.13 1992.10.30 1997.10. 8 2002.10. 8	明 治 大 学 高 松 労 山 J A C カトマンズクラブ カトマンズクラブ J A C 明 治 大 学 明 治 大 学	南西稜 北東稜 南西面 北西面 南東稜 南 壁 北東面 西 面	初登攀 日本人初登 初登頂	13
15	宮 崎 勉 (64,712m) 8 座 1947.11. 生 (56歳)	a. ダウラギリIV b. ダウラギリ I c. ローツェ d. カルジャンN e. チョー・オユー f. ガッシャーブルム I g. ガッシャーブルム II h. チョモランマ	7,661 8,167 8,516 7,216 8,201 8,068 8,035 8,848	N N N C C P P C	1975.10.21 1978.10.19 1983.10.10 1986.10.16 1993.10.12 1997. 7. 9 1997. 7. 14 2002. 5. 17	カモシカ同人 群馬県山岳連盟 カモシカ同人 H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 桐 生 山 岳 会	南 面 南東稜 西 面 西 面 北西面 北 稜 南西稜 北 稜	初登攀 54歳と187日	14
16	後 藤 文 明 (63,466m) 8 座 1965. 5. 生 (38歳) 冬期 1 座	a. プモ・リ b. サトバントM c. チョー・オユー d. サガルマータ e. ガッシャーブルム II f. ブロード・ピークM g. シシャバンマM h. ガッシャーブルム I	7,161 7,075 8,201 8,848 8,035 8,051 8,027 8,068	N I C N P P C P	1987.10.13 1990. 8. 10 1993.10. 8 1993.12.18 1997. 7. 8 1997. 7. 20 1999.10.29 2002. 8. 5	境 町 山 の 会 H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 H A J	南 稜 北 稜 北西面 南西壁 南西稜 西 稜 北東稜 北 稜	冬期初登攀	15
17	重 廣 恒 夫 (63,435m) 8 座 1947.10. 生 (56歳) 初登頂 1 座 トラバース 1 回	a. ナンダデヴィE b. K 2 c. ラトック I d. チョモランマ e. カンチェンジュンガC f. マッシャーブルムE g. ブロード・ピークM h. ナイプン	7,434 8,611 7,145 8,848 8,482 7,821 8,051 7,043	I P P C N P P C	1976. 6. 9 1977. 8. 8 1979. 7. 19 1980. 5. 10 1984. 5. 18 1985. 7. 23 1985. 8. 12 1991.11.25	J A C J M A 京都カラコルムC J A C J A C 関西カラコルム 関西カラコルム J A C	南 稜 南東稜 南 稜 北西壁 南 稜 北西壁 西 稜 南西稜	第二登 初登頂 下部初登攀 Sから縦走 初登攀	16

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ルート	摘 要	*
18	江 塚 進 介 (62,937m) 8 座 1961. 4. 生 (42歳) 冬期 1 座 ハット・トリック 1回	a. コルジェネフスカヤ b. イスモイル・ソモニ c. レーニン d. ブロード・ピーク M e. チョー・オユー f. サガルマータ g. ガッシャーブルム I h. ガッシャーブルム II	7,105 7,495 7,134 8,051 8,201 8,848 8,068 8,035	T T K P C N P P	1991. 7. 17 1991. 7. 29 1991. 8. 5 1993. 8. 24 1993. 10. 11 1993. 12. 20 1997. 7. 7 1997. 7. 14	東 海 山 岳 会 東 海 山 岳 会 東 海 山 岳 会 東 海 山 岳 会 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	ツェト ボロド ラズジ 西 稜 北西面 南西壁 北 稜 南西稜	ハット・トリック	17
19	今 村 裕 隆 (61,954m) 8 座 1959. 4. 生 (44歳) 初登頂 1 座	a. ギャラ・ペリ b. チョゴリ c. カンチェンジュンガ M d. マカルー I e. スン f. ティリッチ・ミール M g. スパンティーク h. アピ	7,294 8,611 8,586 8,463 7,135 7,706 7,027 7,132	C C I N I P P N	1986. 10. 31 1990. 8. 9 1991. 5. 24 1991. 10. 5 1992. 8. 13 1995. 7. 7 1999. 8. 15 2001. 10. 6	H A J 横 浜 山 岳 協 会 H A J ベルニナ山岳会 H A J バーバリアン バーバリアン バーバリアン	南 稜 北西壁 北東稜 北西稜 西 稜 西 稜 南東稜 北 面	初登頂 下部初登攀	18
20	石 川 富 康 (58,270m) 6 座 1936. 11. 生 (67歳)	a. チョー・オユー b. サガルマータ c. ダウラギリ I d. シシャパンマ C e. マナスル f. ガッシャーブルム II g. チョモランマ	8,201 8,848 8,167 8,008 8,163 8,035 8,848	C N N C N P C	1991. 9. 28 1994. 5. 13 1994. 10. 1 1995. 9. 26 1996. 9. 27 1998. 7. 22 2002. 5. 17	シルバートートル 愛知学院大学 シルバートートル Y M S 登 稜 会 シルバートートル 桐 生 山 岳 会	北西面 南 稜 北東稜 北東稜 北東面 南西稜 北 稜	54歳と310日 57歳と172日 57歳と313日 58歳と308日 59歳と309日 61歳と242日 65歳と176日	19
21	北 村 俊 之 (55,975m) 7 座 1962. 8. 生 (41歳) トラバース 1 回	a. ブロード・ピーク M b. パサン・ラム・チュリ c. ダウラギリ I d. ガッシャーブルム I e. ナンガ・パルバット f. チョー・オユー g. シシャパンマ C	8,051 7,354 8,167 8,068 8,126 8,201 8,008	P N N P P C C	1995. 7. 19 1996. 10. 19 1997. 5. 31 1997. 7. 16 1998. 8. 5 1999. 10. 1 2003. 10. 14	F O S 大 阪 山 の 会 ガ イ ヤ J A F M A フ ァ イ ト J A C 東 海	西 稜 西 稜 北東稜 北 稜 西 面 北西面 北東稜	縦走 下部初登攀	30
22	高 橋 和 宏 (57,019m) 7 座 1973. 10. 生 (40歳) 初登頂 1 座	a. K 2 b. マナスル c. リャンカンカンリ d. ガッシャーブルム II e. ガッシャーブルム I f. ローツェ g. アンナプルナ I	8,611 8,163 7,535 8,035 8,068 8,516 8,091	P N C P P N N	1996. 8. 14 1997. 10. 8 1999. 5. 9 2001. 7. 10 2001. 8. 13 2002. 10. 3 2003. 5. 16	J A C 明 治 大 学 明 治 大 学 明 治 大 学 明 治 大 学 明 治 大 学 明 治 大 学	南南東 北東面 北 稜 南西稜 北 稜 西 面 南 壁	初登頂	27
23	倉 橋 秀 都 (55,645m) 7 座 1960. 2. 生	a. ハン・テングリ b. ボベータ c. シシャパンマ C d. チョモランマ	7,010 7,439 8,008 8,848	K K C C	1991. 8. 2 1991. 8. 14 1994. 5. 18 1998. 5. 18	労 山 労 山 労 山 労 山	ボグレ ヴァジ 北東稜 北 稜		21

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
	(43歳)	e. ナンガ・バルバット	8,126	P	1999. 7. 27	労 山	西 面		
		f. ブロード・ピークM	8,051	P	2000. 7. 26	労 山	西 稜		
		g. マナスル	8,163	N	2001. 10. 9	労 山	北東面		
24	山野井 妙 子 (54,870m) 7 座 1956. 3. 生 (47歳) 無酸素 1 座 アルパイン・ スタイル 1 座	a. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1985. 7. 28	高 山 研 究 所	ボロド	O ₂ レス AP	22
		b. レーニン	7,134	K	1985. 8. 6	高 山 研 究 所	ラズジ		
		c. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1986. 8. 2	高 山 研 究 所	ボロド		
		d. ブロード・ピークM	8,051	P	1991. 7. 30	バイネ／スキー	西 面		
		e. マカルー I	8,463	N	1991. 10. 7	ベルニナ山岳会	北西稜		
		f. ガッシャーブルム II	8,035	P	1993. 7. 31	バイネニアソブ	南西稜		
		g. チョー・オユー	8,201	C	1994. 9. 25		南西壁		
25	山 本 宗 彦 (54,822m) 7 座 1959. 12. 生 (44歳)	a. レーニン	7,134	K	1983. 7. 27	J A C	ラズジ	初登攀	23
		b. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1983. 8. 6	J A C	ボロド		
		c. マッシャーブルム E	7,821	P	1985. 7. 23	関西カラコルム	北西壁		
		d. ブロード・ピークM	8,051	P	1985. 8. 12	関西カラコルム	西 稜		
		e. ラカボシ E	7,010	P	1987. 7. 3	明 治 大 学	北 稜		
		f. チョモランマ	8,848	C	1988. 5. 5	J A C	北 稜		
		g. マカルー I	8,463	C	1995. 5. 22	J A C	東稜下		
26	鈴 木 正 典 (51,599m) 7 座 1961. 12. 生 (42歳) 初登頂 1 座	a. ピラミッド・ピークM	7,123	I	1993. 4. 26	H A J	北東稜	初登頂 下部初登攀	34
		b. マナ NW	7,092	I	1995. 8. 19	山 形	南東稜		
		c. ディラン	7,257	P	1996. 7. 24	バーバリアン	西 稜		
		d. ムスターグ・アタM	7,546	C	1996. 9. 14	浪	西 稜		
		e. ムスターグ・アタM	7,546	C	1998. 8. 1	岩 ・ 山	西 稜		
		f. スバンティーク	7,027	P	2000. 8. 14	H A J	南東稜		
		g. シシャパンマ C	8,008	C	2003. 10. 14	J A C 東 海	北東稜		
27	遠 藤 晴 行 (54,811m) 7 座 1957. 2. 生 (45歳) 無酸素 1 座 AP	a. サガルマータ	8,848	N	1983. 10. 8	イエティ同人	南東稜	O ₂ レス	24
		b. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1985. 7. 20	高 山 研 究 所	ツェト		
		c. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1985. 7. 28	高 山 研 究 所	ボロド		
		d. レーニン	7,134	K	1985. 8. 6	高 山 研 究 所	ラズジ		
		e. ナンガ・バルバット	8,126	P	1988. 7. 12	高 山 研 究 所	西 面		
		f. ガッシャーブルム I	8,068	P	1989. 7. 12	高 山 研 究 所	北 稜		
		g. ガッシャーブルム II	8,035	P	1990. 7. 2	イエティ同人	南西稜		
28	高 橋 堅 (51,553m) 7 座 1958. 8. 生 (43歳) 初登頂 1 座	a. ネムジュン	7,139	N	1983. 10. 27	弘 前 大 学	東 稜	初登頂 初登攀	25
		b. ガッシャーブルム II	8,035	P	1985. 7. 28	横浜蝸牛山岳会	南西稜		
		c. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1988. 7. 22	弘 前 大 学	ツェト		
		d. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1988. 7. 30	弘 前 大 学	ボロド		
		e. レーニン	7,134	K	1988. 8. 7	弘 前 大 学	ラズジ		
		f. ディラン	7,257	P	1989. 7. 12	弘 前 大 学	北 稜		
		g. ウルタル II	7,388	P	1996. 7. 31	カトマンズクラブ	南 稜		
29	林 雅 樹 (51,380m)	a. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1990. 7. 24	京都クライマーズC	ツェト		26
		b. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1990. 8. 1	京都クライマーズC	ボロド		

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
	7 座 1963. 11. 生 (39歳)	c. レーニン d. ハン・テングリ e. ポベータ f. ガッシャーブルム I g. パルンツェ	7,134 7,010 7,439 8,068 7,129	K H K P N	1990. 8. 7 1994. 8. 11 1994. 8. 22 1996. 7. 30 2000. 10. 17	京都クライマーズC 京都クライマーズC 京都クライマーズC 京都クライマーズC 京都クライマーズC	ラズジ ソロマ ヴァジ 北 稜 南東稜		
30	石 川 龍 彦 (50,791m) 7 座 1952. 2. 生 (51歳)	a. レーニン b. コルジェネフスカヤ c. イスモイル・ソモニ d. ムスターグ・アタM e. ニンチン・カンサ f. ハン・テングリ g. パスー E	7,134 7,105 7,495 7,546 7,206 7,010 7,295	K T T C C T P	1983. 8. 2 1985. 7. 29 1985. 8. 6 1996. 8. 17 1997. 8. 18 2000. 7. 30 2003. 8. 18	関 西 H A J H A J H A J	ラズジ ツェト ボロド 西 稜 南西稜 東 面		35
31	長久保 浩 司 (49,561m) 6 座 1969. 4. 生 (34歳)	a. ガッシャーブルム II b. ジンミゲラ・チュリ c. K 2 d. チョー・オユー e. ローツェ f. サガルマータ	8,035 7,350 8,611 8,201 8,516 8,848	P N P C N N	1993. 7. 22 1995. 10. 16 1996. 8. 14 1999. 9. 28 2003. 5. 10 2003. 5. 22	東京農業大学 東京農業大学 J A C 東京農業大学 東京農業大学	南 稜 西 稜 南々東リブ 北西面 西 面 南東稜	初登攀	
32	×星野 龍史 (48,567m) 6 座 1967. 11. 生 冬期 1 座	a. チョー・オユー b. サガルマータ c. ウルタル II d. ガッシャーブルム I e. ガッシャーブルム II f. シシャパンマM	8,201 8,848 7,388 8,068 8,035 8,027	C N P P P C	1993. 10. 8 1993. 12. 22 1996. 7. 31 1997. 7. 7 1997. 7. 14 1999. 10. 29	群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 カトマンズクラブ 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	北西面 南西壁 南 稜 北 稜 南 西 北東稜	初登攀	28
33	加 藤 慶 信 (48,408m) 6 座 1976. 1. 生 (27歳) 初登頂 1 座	a. マナスル b. リャンカンカンリ c. ガッシャーブルム II d. ガッシャーブルム I e. ローツェ f. アンナプルナ I	8,163 7,535 8,035 8,068 8,516 8,091	N C P P N N	1997. 10. 8 1999. 5. 9 2001. 7. 10 2001. 8. 13 2002. 10. 3 2003. 5. 16	明 治 大 学 明 治 大 学 明 治 大 学 明 治 大 学 明 治 大 学	北東面 北 稜 南西稜 北 稜 西 面 南 壁	初登頂	41
34	渡 辺 玉 枝 (48,236m) 6 座 1938. 11. 生 (65歳)	a. チョー・オユー b. ダウラギリ I c. ガッシャーブルム II d. ポベータ e. ムスターグ・アタ f. サガルマータ	8,201 8,167 8,035 7,439 7,546 8,848	C N P T C N	1991. 9. 28 1994. 10. 1 1998. 7. 22 1999. 8. 11 2001. 8. 12 2002. 5. 16	シルバータートル シルバータートル シルバータートル 雪 豹 ク ラ ブ	北西面 北東稜 南西稜 ヴァジ 西 稜 南東稜	52歳と311日 55歳と314日 59歳と243日 63歳と176日	29
35	高 橋 和 之 (46,112m) 6 座 1943. 1. 生 (60歳)	a. ダウラギリ IV b. ローツェ c. コルジェネフスカヤ d. イスモイル・ソモニ e. レーニン	7,661 8,516 7,105 7,495 7,134	N N T T K	1975. 10. 19 1983. 10. 11 1985. 7. 21 1985. 7. 28 1985. 8. 6	カモシカ同人 カモシカ同人 高山研究所 高山研究所 高山研究所	南 面 西 面 ツェト ボロド ラズジ		31

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
		f. チョー・オユー	8,201	C	1987. 9. 21	カモシカ同人	北西面	パラバント	
36	青 田 浩 (45,503m) 6 座 1958. 1. 生 (45歳) 初登頂 1 座	a. アンナブルナ I b. レーニン c. プモ・リ d. ナムチャ・バルワ e. レーニン f. チョー・オユー	8,091 7,134 7,161 7,782 7,134 8,201	N K N C K C	1981. 10. 29 1984. 8. 2 1986. 12. 5 1992. 10. 30 1999. 8. 5 2002. 10. 1	イエティ同人 カモシカ同人 J A C J A C	南 壁 ラズジ 北東稜 南 面 ラズジ 北西面	初登攀 初登頂	32
37	原 真 (43,952m) 6 座 1936. 8. 生 (67歳)	a. コルジェネフスカヤ b. コルジェネフスカヤ c. シシャバンマ C d. コルジェネフスカヤ e. イスモイル・ソモニ f. レーニン	7,105 7,105 8,008 7,105 7,495 7,134	T T C T T K	1976. 8. 7 1982. 7. 31 1982. 10. 10 1985. 7. 21 1985. 7. 29 1985. 8. 6	J A C 東海 高山研究所 高山研究所 高山研究所 高山研究所 高山研究所	ツェト ツェト 北東稜 ツェト ポロド ラズジ		33
38	坂 原 忠 清 (43,108m) 6 座 1944. 10. 生 (59歳) 初登頂 1 座	a. ムスターグ・アタ N b. ヌン c. レーニン d. ハン・テングリ e. ボベダ f. ニンチン・カンサ	7,184 7,135 7,134 7,010 7,439 7,206	C I K K K C	1981. 8. 7 1982. 8. 15 1988. 8. 17 1991. 8. 10 1996. 8. 3 2000. 8. 9	スピダーニエ スピダーニエ スピダーニエ 日本教員 日本教員 日本教員	北 面 西 稜 ラズジ ボグレ ヴァジ 東 稜	初登頂 単独	36
39	×加藤 保男 (42,523m) 5 座 1949. 3. 生 冬期 1 座	a. サガルマータ b. ナンダデヴィ M c. チョモランマ d. マナスル e. サガルマータ	8,848 7,816 8,848 8,163 8,848	N I C N N	1973. 10. 26 1976. 6. 15 1980. 5. 3 1981. 10. 14 1982. 12. 27	R C C II J A C J A C イエティ同人 イエティ同人	南東稜 南 稜 北 稜 北東面 南東稜	秋期初登頂 冬期第二登	37
40	×三枝 照雄 (42,015m) 5 座 1957. 10. 生 冬期 1 座 AP	a. サガルマータ b. アンナブルナ I c. チョモランマ d. シシャバンマ M e. チョー・オユー	8,848 8,091 8,848 8,027 8,201	N N C C C	1985. 10. 30 1987. 12. 20 1988. 5. 5 1988. 10. 24 1988. 11. 6	植村直己物語 群馬県山岳連盟 J A C H A J H A J	南東稜 南 壁 北 稜 北東稜 北西面	冬期初登攀 ハット・トリック	38
41	竹 内 洋 岳 (41,583m) 5 座 1971. 1. 生 (31歳) 初登頂 1 座	a. マカールー I b. チョモランマ c. K 2 d. リャンカンカンリ e. ナンガ・パルバット	8,463 8,848 8,611 7,535 8,126	C C P C P	1995. 5. 22 1996. 5. 17 1996. 8. 14 1999. 5. 9 2001. 6. 30	J A C 立 正 大 学 J A C 国 際 隊	東稜下 北 稜 南南東 北 稜 西 面	初登攀 初登頂	39
42	吉 田 裕 一 (41,360m) 5 座 1970. 8. 生 (33歳)	a. ガッシャーブルム II b. ジンミゲラ・チュリ c. K 2 d. ローツェ e. サガルマータ	8,035 7,350 8,611 8,516 8,848	P N P N N	1993. 7. 22 1995. 10. 16 1996. 8. 12 2003. 5. 10 2003. 5. 22	東京農業大学 東京農業大学 J A C 東京農業大学 東京農業大学	南 稜 西 稜 南々東リブ 西 面 南東稜	初登攀	110
43	山野井 泰 史 (40,883m)	a. ブロード・ピーク M b. ガッシャーブルム II	8,051 8,035	P P	1991. 7. 30 1993. 7. 31	バイネニアソブ バイネニアソブ	西稜 南西稜		40

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
	5 座 1965. 4. 生 (38歳)	c. チョー・オユー d. K 2 e. キャチュン・カン	8,201 8,611 7,985	C P C	1994. 9. 23 2000. 7. 30 2002. 10. 8	同 人 パ ハ ー ル	南西壁 南々東リブ 北 壁	単独初登攀 単独	
44	谷 口 守 (39,800m) 5 座 1948. 12. 生 (55歳)	a. ナンガ・バルバット b. ブロード・ピークM c. チョー・オユー d. ガッシャーブルム I e. パサン・ラム・チュリ	8,126 8,051 8,201 8,068 7,354	P P C P N	1983. 7. 31 1988. 8. 13 1992. 9. 20 1994. 8. 12 1996. 10. 19	富山県山岳連盟 富山県山岳連盟 カトマンズクラブ 富山県山岳連盟 大 阪 山 の 会	西 面 西 稜 北西面 北 稜 西 稜	日本人初登 下部初登攀	42
45	奥 田 仁 一 (39,233m) 5 座 1966. 9. 生 (37歳)	a. カンチェンジュンガM b. ニンチン・カンサ c. チョー・オユー d. ムスターグ・アタ e. ナムナニ	8,586 7,206 8,201 7,546 7,694	N C C C C	1998. 5. 15 1999. 5. 30 1999. 9. 28 2001. 8. 11 2001. 9. 25	J A C J A C 関 西 大 学	北 壁 南西稜 北西面 西 稜 西 面		43
46	×佐藤 正倫 (39,161m) 5 座 1963. 8. 生 初登頂 2 座	a. 7,167m峰 b. ナンガ・バルバット c. ブロード・ピークM d. ナムチャ・バルワ e. ガッシャーブルム II	7,167 8,126 8,051 7,782 8,035	C P P C P	1986. 8. 16 1990. 7. 24 1991. 7. 12 1992. 10. 30 1993. 7. 22	東京農業大学 バイネニアソブ 東京農業大学 J A C 東京農業大学	南東面 西 面 西 稜 南 壁 南 稜	初登頂 初登頂	44
47	林 孝 治 (39,083m) 5 座 1951. 9. 生 (52歳)	a. シシャパンマC b. ダウラギリ I c. ムスターグ・アタ d. プモ・リ e. チョー・オユー	8,008 8,167 7,546 7,161 8,201	C N C N C	1994. 5. 18 1995. 10. 16 1996. 8. 17 1998. 10. 22 2003. 9. 21	労 山 労 山 大 阪 労 山 大 阪 労 山 カ ラ ン ク ル ン	北東稜 北東稜 西 稜 南東稜 北西面	51歳と356日	72
48	和 田 城 志 (39,025m) 5 座 1949. 10. 生 (54歳) 初登頂 1 座	a. ゲント II b. ランタン・リルン c. カンチェンジュンガM d. マッシャーブルム E e. ブロード・ピークM	7,342 7,225 8,586 7,821 8,051	P N N P P	1978. 7. 15 1978. 10. 24 1984. 5. 20 1985. 7. 23 1985. 8. 12	関西学生岳連 大阪市立大学 J A C 関西カラコルム 関西カラコルム	北 面 南東面 南西面 北西壁 西 稜	初登頂 初登攀	45
49	上 野 幸 人 (38,948m) 5 座 1954. 1. 生 (49歳)	a. イスモイル・ソモニ b. ダウラギリ I c. チョー・オユー d. リスム e. ガッシャーブルム II	7,495 8,167 8,201 7,050 8,035	T N C C P	1986. 8. 2 1994. 9. 27 1995. 9. 29 1997. 5. 10 2003. 8. 1	高 山 研 究 所 秋 田 労 山 労 山	ボロド 北西面 北 稜 南西稜	初登頂	71
50	保 坂 昭 憲 (38,860m) 5 座 1948. 2. 生 (55歳)	a. カンチェンジュンガM b. ヌン c. カルジャンN d. サトバントM e. チョモランマ	8,586 7,135 7,216 7,075 8,848	N I C I C	1981. 9. 9 1983. 9. 14 1986. 10. 16 1990. 8. 10 2000. 5. 17	H A J こまくさ山岳会 H A J H A J 東 北 海 登 研	南西面 西 稜 西 壁 北 稜 北 稜	52歳と90日	46
51	東 條 真百合 (37,936m) 5座	a. コルジュネフスカヤ b. イスモイル・ソモニ c. レーニン	7,105 7,495 7,134	T T K	1985. 7. 28 1985. 8. 7 1985. 8. 15	女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 女子登攀クラブ	ツェト ボロド ラズジ		47

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
	1955. 6. 生 (48歳)	d. ガッシャーブルムⅡ e. ダウラギリⅠ	8,035 8,167	P N	1988. 8. 8 1990. 10. 9	女子登攀クラブ 女子登攀クラブ	南西稜 北東稜		
52	吉 村 哲 明 (37, 042m) 5 座 1961. 7. 生 (42歳)	a. コルジェネフスカヤ b. イスモイル・ソモニ c. レーニン d. ディラン e. ブロード・ピーク M	7,105 7,495 7,134 7,257 8,051	T T K P P	1988. 7. 22 1988. 7. 30 1988. 8. 7 1989. 7. 12 1991. 7. 30	弘 前 大 学 弘 前 大 学 弘 前 大 学 弘 前 大 学 パイネ／スキー	ツェト ボロド ラズジ 北 稜 西 稜	初登攀	48
53	高 橋 純 一 (37, 021m) 5 座 1948. 11. 生 (55歳)	a. イスモイル・ソモニ b. シア・カンリ c. ムスターグ・アタ N d. リモⅠ e. リャンカンカンリ	7,495 7,422 7,184 7,385 7,535	T P C I C	1977. 8. 8 1979. 7. 30 1981. 8. 14 1988. 7. 30 1999. 5. 10	H A J 京都カラコルム C ス ビ ダ ー ニ ュ H A J	ボロド 南西面 北 面 南 壁 北 稜		49
54	大神田伊曾美 (37, 013m) 5 座 1944. 5. 生 (59歳)	a. コルジェネフスカヤ b. レーニン c. チョー・オユー d. スパンティーク e. ムスターグ・アタ	7,105 7,134 8,201 7,027 7,546	T K C P C	1996. 8. 14 1998. 8. 13 1999. 9. 26 2000. 8. 15 2001. 8. 12	労 山 労 山 フ ェ イ ト H A J	ツェト ラズジ 北西面 南東稜 西 稜	55歳と145日	50
55	×高橋 敏雄 (36,428m) 5 座 1958. 10. 生	a. チョー・アウイ b. ムスターグ・アタ c. ニンチン・カンサ d. スパンティーク e. パスー E	7,354 7,546 7,206 7,027 7,295	C C C P P	1986. 10. 14 1993. 8. 17 1997. 8. 17 2000. 8. 14 2003. 8. 18	H A J H A J H A J H A J H A J	北西稜 西 稜 南西稜 南東稜 東 面		85
56	松 本 正 城 (36, 362m) 5 座 1948. 11. 生 (55歳)	a. クン b. ヌン c. ガッシャーブルムⅡ d. コルジェネフスカヤ e. ハン・テングリ	7,077 7,135 8,035 7,105 7,010	I I P T H	1981. 8. 27 1982. 8. 18 1985. 7. 28 1988. 7. 30 1989. 8. 15	R C C Ⅱ 東京山岳協会 横浜蝸牛山岳会	東 稜 北西稜 南西稜 南東面 ソロマ		51
57	×小口 順史 (36, 139m) 5 座 1970年	a. ハン・テングリ b. ハン・テングリ c. ポベータ d. レーニン e. ムスターグ・アタ	7,010 7,010 7,439 7,134 7,546	H H K K C	1992. 8. 10 1997. 8. 6 1997. 8. 17 1999. 2001. 8. 11	東 農 工 大 太 陽 と 風 太 陽 と 風	北 面 北 面 西 稜 ラズジ 西 稜		52
58	山 中 芳 樹 (35, 819m) 5 座 1950. 9. 生 (53歳)	a. イスモイル・ソモニ b. コルジェネフスカヤ c. レーニン d. ハン・テングリ e. サトバント M	7,495 7,105 7,134 7,010 7,075	T T K H I	1986. 8. 3 1986. 8. 9 1986. 8. 15 1989. 8. 15 1994. 9. 24	N C P N C P N C P 労 山 労 山	ボロド ツェト ラズジ ソロマ 北 稜		53

※地域の略号 N＝ネパール、C＝中国、P＝パキスタン、I＝インド、H＝カザフ、K＝キルギス、
T＝タジキスタン

■ 4 座登頂者（備考の数字は8,000m峰登頂数

* 印はエヴェレスト登頂者）

順位	氏 名	生年月日	獲得標高	備考
57	村口 徳行	1956. 5 . 生	34,579m	4 *
58	川村 晴一	1947.12. 生	33,755m	3 *
59	貫田 宗男	1951. 3 . 生	33,151m	3 *
60	広瀬 健太	1970. 1 . 生	33,300m	3 *
61	八木原罔明	1946.11. 生	33,215m	3 *
62	戸高 雅史	1965. 4 . 生	32,823m	4
63	森 章一	1975. 4 . 生	32,710m	4
64	天野 和明	1977. 2 . 生	32,710m	4
65	坂本 正治	1959.10. 生	32,670m	3 *
66	吉田 文江	1955.10. 生	32,454m	4
67	遠藤 由加	1966. 1 . 生	32,430m	4
68	大蔵 喜福	1951. 2 . 生	32,354m	3
69	大谷 映芳	1947. 4 . 生	32,138m	2
70	鈴木 幹夫	1967. 3 . 生	32,115m	3
71	×小西政継	1938.11. 生	32,048m	3
72	八嶋 寛	1950. 3 . 生	31,827m	3 *
73	中島 俊弥	1964.12. 生	31,696m	2 *
74	×斎藤安平	1953. 1 . 生	31,431m	3
75	鈴木 清彦	1957. 2 . 生	31,401m	2
76	×二上純一	1951.12. 生	31,166m	1 *
77	重野太肚二	1943. 4 . 生	31,100m	2
78	鈴木 孝雄	1938. 5 . 生	30,865m	3
79	富田 雅昭	1956. 6 . 生	30,771m	2
80	飛田 和夫	1946. 1 . 生	30,377m	1
81	千葉 孝義	1945. 9 . 生	30,027m	1
82	早川 晃生	1956. 7 . 生	29,941m	1
83	田村 正勝	1942. 4 . 生	29,938m	1
84	金沢 健	1945.10. 生	29,935m	1
85	柳沢 伸子	1950.10. 生	29,769m	1
86	古関 正雄	1961. 3 . 生	29,767m	1
87	中川 裕	1960. 8 . 生	29,302m	0
88	安藤 昌之	1955.11. 生	29,280m	0
89	新郷 信廣	1943. 3 . 生	29,250m	0
90	黒滝 淳二	1952.10. 生	29,116m	0
91	佐藤 英樹	1948. 4 . 生	28,994m	0
92	堀 弘	1957. 8 . 生	28,991m	0
93	黒沢 孝夫		28,744m	0
94	川崎 浩史	1964. 1 . 生	28,464m	0
95	×北沢真一	1952. 2 . 生	28,259m	0

■ 3 座登頂者

順位	氏 名	生年月日	獲得標高	備考
96	村上 和也	1955. 3 . 生	25,975m	3 *
97	×吉野 寛	1950. 2 . 生	25,626m	3 *
98	×禿 博信	1951.10. 生	25,626m	3 *
99	続 素美代	1967.12. 生	25,250m	3 *
100	鈴木 昇己	1953. 2 . 生	25,144m	2 *
101	中村 省禰	1942. 5 . 生	25,120m	2 *
102	澤田 実	1968. 7 . 生	25,141m	3 *
103	佐藤 光由	1961. 4 . 生	25,100m	3 *
104	安村 淳	1946. 8 . 生	25,057m	3 *
105	井本 重喜	1963. 1 . 生	24,942m	2 *
106	坂下 直枝	1947. 2 . 生	24,907m	2
107	×根津皖一	1939.12. 生	24,403m	3
108	×大西 宏	1962. 5 . 生	24,321m	2 *
109	早川 敦	1973. 8 . 生	24,194m	3
110	菊池 守	1955. 5 . 生	24,180m	2 *
111	工藤 寛	1966. 6 . 生	24,172m	2 *
112	橋本 久	1952.10. 生	24,017m	2 *
113	賀集 信	1949. 1 . 生	23,998m	1
114	中村 和貞	1973.10. 生	23,923m	2
115	川原 慶紀	1940.11. 生	23,866m	2 *
116	九里 徳泰	1965. 3 . 生	23,755m	2
117	大久保由美子	1968.12. 生	23,744m	2
118	大宮 求	1949. 4 . 生	23,639m	2
119	×高見和成	1945. 5 . 生	23,595m	1
120	×小松幸三	1954. 5 . 生	23,579m	1
121	中西 紀夫	1958. 3 . 生	23,546m	2
122	中村 進	1946. 1 . 生	23,488m	1 *
123	加藤 幸彦	1933. 1 . 生	23,479m	1
124	小笠原岩雄	1952.11. 生	23,436m	2
125	棚橋 靖	1963. 1 . 生	23,357m	2
126	吉田 憲司	1953. 1 . 生	23,300m	1
127	×日野悦郎	1940. 5 . 生	23,270m	2
128	桑原 巖	1935.11. 生	23,185m	2
129	池田 壮彦	1946.10. 生	23,144m	2
130	永田 幸一	1957.12. 生	23,088m	1 *
131	島方 健次	1947.12. 生	23,040m	1
132	平林 克敏	1934.12. 生	23,011m	1 *
133	×廣島三朗	1943. 3 . 生	22,998m	1
134	松林 公蔵	1950. 5 . 生	22,983m	1
135	×小林利明	1948.12. 生	22,939m	1

順位	氏 名	生年月日	獲得標高	備考
136	坂井 広志	1957. 2 . 生	22,916m	1
137	×角田不二	1952. 9 . 生	22,760m	1
138	角谷 道弘	1963.10. 生	22,746m	1
139	×榊原義夫	1953.11. 生	22,743m	1
140	大谷 亮	1959. 9 . 生	22,721m	1
141	小林 新二	1956.10. 生	22,718m	1
142	真嶋 花子	1949. 2 . 生	22,650m	1
143	駒宮 博男	1954. 5 . 生	22,637m	1
144	服部 徹	1970. 1 . 生	22,500m	1
145	吉田 秀樹	1953. 5 . 生	22,446m	1
146	小泉 章夫	1955.11. 生	22,401m	1
147	広瀬 学	1967. 3 . 生	22,311m	1
148	佐々木穂高	1972. 6 . 生	22,311m	1
149	岡林 良一	1951.11. 生	22,271m	1
150	横山 英雄	1942. 4 . 生	22,122m	0
151	志小田美弘	1959. 1 . 生	22,106m	0
152	金子 秀一	1959.10. 生	21,946m	0
153	金子 珠美	1958. 4 . 生	21,946m	0
154	古谷 朋之	1972. 8 . 生	21,853m	0
155	天城 敞彦	1947. 5 . 生	21,827m	0
156	橋本 康弘	1954. 8 . 生	21,796m	0
157	燕昇司 実	1942. 8 . 生	21,757m	0
158	関根 幸次	1933.10. 生	21,756m	0
159	三原 洋子	1941. 5 . 生	21,755m	0
160	×井波美保	1957. 1 . 生	21,734m	0
160	松永 忠則		21,734m	0
160	鴨川 正昭		21,734m	0
163	斉藤 正		21,734m	0
163	入瀬 透		21,734m	0
163	横森 健治		21,734m	0
163	梶山 正		21,734m	0
167	×山崎彰人	1967. 7 . 生	21,721m	0
168	橋口 徹	1970. 6 . 生	21,667m	0
169	水谷 寿宏	1964. 4 . 生	21,583m	0
170	武部 秀夫	1952.12. 生	21,562m	0
171	加藤 和美	1953. 2 . 生	21,511m	0
172	石澤 好文	1951.11. 生	21,495m	0
173	保坂 巖	1955. 1 . 生	21,476m	0
174	溝手 康史	1955. 5 . 生	21,465m	0
175	花井 修	1952. 1 . 生	21,363m	0
176	井上 仁	1958.11. 生	21,249m	0

■八千メートル峰 2 座登頂者

順位	氏 名	生年月日	獲得標高	備考
177	×椎名厚史	1970. 6 . 生	17,197m	2
178	×赤坂謙三	1968. 4 . 生	17,197m	2
179	松原 尚之	1965. 3 . 生	17,074m	2
180	木本 哲	1956. 2 . 生	17,049m	2 *
181	野口 健	1973. 8 . 生	17,049m	2 *
182	荻尾 雄二	1972. 7 . 生	17,049m	2 *
183	田中 敏雄	1955. 8 . 生	17,049m	2 *
184	山本 俊雄	1936. 7 . 生	17,049m	2 *
185	山田 淳	1979. 5 . 生	17,049m	2 *
186	佐藤 信二	1950. 7 . 生	17,049m	2 *
187	三浦雄一郎	1932.10. 生	17,049m	2 *
188	三浦 豪太	1969. 8 . 生	17,049m	2 *
189	高畠 聡	1965. 7 . 生	17,049m	2 *
190	荒木富美雄	1949. 9 . 生	17,049m	2 *
191	田中 基喜	1948. 7 . 生	17,011m	2 *
192	花田 博志	1960. 3 . 生	16,974m	2 *
193	矢野 利明	1952.11. 生	16,899m	2 *
194	瀧根 正幹	1951.10. 生	16,812m	2
195	鈴木 茂	1955. 1 . 生	16,753m	2
196	山本 秀夫	1949.12. 生	16,737m	2
197	×柳沢幸弘	1955. 2 . 生	16,702m	2
198	稲葉 英樹	1964. 3 . 生	16,679m	2
199	小野 岳	1960. 7 . 生	16,589m	2
200	福島 正明	1950.10. 生	16,511m	2
201	近藤 謙司	1962. 6 . 生	16,402m	2
202	池田 錦重	1938.11. 生	16,368m	2
203	清水 修	1958. 4 . 生	16,269m	2
204	加藤 智二	1960. 5 . 生	16,236m	2
205	片山 右京	1963. 5 . 生	16,209m	2
206	谷山 宏典	1979. 2 . 生	16,103m	2
207	×福本誠志	1973.12. 生	16,078m	2
208	辻 美行	1947. 6 . 生	16,089m	2

■ 2 座登頂者（上記を除く）

古野淳、×植村直己、×藤倉和美、泉田清幸、
 深田良一、×坂野俊孝、高橋留智亜、重川英介、
 阿部訟二、熱田渉、佐藤賢、中川邦仁、小野寺
 正英、西堤理一、外山哲也、×二俣勇司、片岡
 邦夫、斎藤惇生ら133名

〔訂正〕前号の吉野寛の出生地を三鷹市とする。

地域ニュース

《中国》

グローズベナー(6,376m)初登頂

昨年11月5日、英国のロジャー・パイネとジュリー＝アン・クリマは、大雪山脈・コンガ山群の同峰の北壁から西稜に抜けるルートを、アルパインスタイルで初登頂した。英国グレードで4から5級、ところにより6級のドライツーリングを強いられる困難なルートと報告している。

二人は登りに3日、下りは東稜を下降して、コルから北壁側へ懸垂で下降しABCに戻ったのは出発してから5日目だった。

尚、春には、A・ケープ＝M・ファウラーペア等も北壁中央などに挑んだが敗退している。

Books

カラコルム・ヒマラヤに魅せられて

井上重治著

著者は定年後の1992年に初めてカラコルムを訪問してから7回カラコルム・トレッキングを実行した。また、山岳写真と短歌を学んだ。本書の内容は雄大なカラコルムの空撮による山々の同定、トレッキング案内にとどまらず、著者の貪欲なまでの観察眼は、氷河、花々、動植物、きのこなど広範囲におよび、ナチュラリストの面目躍如たるものがある。その報告の幾つかは「ヒマラヤ」誌上でも発表された。総頁640頁の内容は①カラコルム・ヒマラヤのトレッキング紀行は、パサー氷河、チャラクサ谷、ゴンドゴロ谷など7回のトレッキング報告。②カラコルム・ヒマラヤをめぐる物語は、カラコルムの空撮写真による山々の同定、交通事情、パサー村の歴史と大洪水、バクロット谷物語、ディランに残されたピッケルの謎の解明、1992年9月の大洪水など。③カラコルム・ヒマラヤの自然を語るは、パサー氷河の不思議な動き、カラコルム植物紀行、カラコルムの花を訪ねる、芳香植物を調べる、きのこ、動物たちなどと盛り

沢山の内容で飽きること無く読み進むことができる。とにかく豊富な写真が著者の文を理解する手助けとなっている。(記：山森欣一)

A 5判 640頁(内カラー15頁) [写真：カラー75点、モノクロ423点] 2004年4月刊 9,041円(税・送料込み) 申し込みは『遊人工房』

品川区北品川5-4-6-402 FAX 03-5791-4392

リャンカン・カンリ初登頂

1999年春、中国(チベット)とブータンの国境付近に聳える7,535mの末踏峰に初登頂した報告書。登山隊の当初の目標は、山群の主峰であるガンカル・プンスム(7,570m)とリャンカン・カンリであった。主催はJAC、後援は読売新聞。前年秋には偵察も終えていた。ところが出発の寸前になって在インド・ブータン大使館からクレームがつきJAC理事会は計画を白紙とし延期。隊員が目標をリャンカン・カンリへと絞ったが、今度はJAC評議員会が追い討ちをかけるように「JAC主催」もまかりならぬ、との決定。計画はJACを離れて実行された。そして初登頂に成功したのであるが、その事実があますことなく報告されている。それにしても、1980年代、HAJがインドと合同で東部カラコルム登山を実施した当時、「インドは外国隊を使って領土を主張しようとしている!」と、外部のやっかみが聞こえてきたが、この登山では派遣するJAC内に「中国は覇権主義国家だから私達に登山させる事によって国境を画定させようとしている」との声があったと報告されている。多くの複雑な背景の中、「若い登山者」に登山の道を確保し実現した隊長以下に賛辞を贈りたい!なお経緯については「ヒマラヤ332号」の「ガンカー峰とリャンカン峰を考える」を参照されたい。また、資料として王鳳桐氏の「中国登山協会の活動記録」が掲載されており、1993年に中国で発行された「中国登山運動史」に盛られている1991年以降の中国人による活発な登山の模様を知ることが出来、貴重な資料となっている。

(記：山森欣一)

B 5判 159頁(内カラー8頁) 2003年12月刊
連絡先：〒143-0021 大田区北馬込1-23-11-201

伊丹紹泰方 日本リャンカン・カンリ登山隊

山の文化とともに

幾つもの著作を世に送り出してきた斎藤一男氏の最新の力作。「山のすばらしさと、著者のその気持ちを、誰かに伝え、生かしてもらおう」ことを念願して執筆された。①『山への接近』には、山の発見／神仏の山／修験道記／紀行・文芸／旅と参詣／温泉記 ②『本州中央部』には、世界の入口／地図と測量／紀行文作家／少数外国人／本州中央部／山岳会誕生／登山の大衆化／学校山岳部の台頭／アルピニズムの登場／岩と雪の世界 ③『登山の激動』には、登山の分化／単独行のひとびと／氷壁への挑戦／社会人の活躍／溪谷への潜入／冬のアルプスへ／ヒマラヤの高峰／世はスピード時代へ／現代人の山。これだけの内容を5カ月で仕上げた、その気力・執筆力に感服する。私はとりあえず「ヒマラヤの高峰」を読んだが、26頁の中に1962年の「インドラサン」を取り上げたの

は、筆者の慧眼ではあるが、私は1971年の「サラグラール」を取り上げて欲しかったと思う。つまり本書の各項は代表的なことがらに絞っており、若い世代が「山岳と登山」を取り巻く概要について学ぶための格好な「参考書」であると言えるが、落ちついて洒落たデザインの表紙であり、是非座右に置きたい一書である。 (記：山森欣一)

A5判 441頁 2004年3月刊 アテネ書房
4,200 円＋税

■財政支援〔1万円〕出口 當

東京集会のお知らせ

日時 4月26日(月)午後7時～
内容 国際山岳年報告書について
場所 HAJルーム(地下鉄有楽町線東池袋下車4番出口から地上に出て右へ徒歩2分)
又は、JR大塚駅下車、都電荒川線の早稲田方面2つ目の東池袋4丁目下車、前方で右に折れて地下鉄出口から徒歩2分)

■ 寸 感 ■

上田茂春氏が、所蔵する本の中から『山岳遭難関係文献と岳人の追悼・遺稿文献目録』を纏めた。個人が所蔵する書籍の範囲内というハンデはあるものの、約900件に及ぶ関係文献が整然と並ぶ様は圧巻である。それが一個人の力によって纏められたことに敬服する反面、以前にも紹介した田村宣紀氏のいう『漫然とその日暮らしの楽しみに甘んじて』来たことを痛切に感じ、日本登山界の文化度の低さを思い知らされている。今からでも遅くない、気がついた人は立ち上がろう！(山森)

ニンチン・カンサトレッキングパンフレット役員へ発送

- 23日(火) 「登山調査用紙実務者会議」(於：HAJルーム、山森)
28日(日) 「中村保さんの秩父宮記念山岳賞受賞を祝う会」国際文化会館(山森)
29日(月) 東京集会(12名)
31日(水) 「登山調査用紙統一について」記者発表、於：体協記者クラブ(山森)

ヒマラヤ No.390 (5月号)

平成16年4月10日印刷 16年5月1日発行
発行人 山森欣一
編集人 山森欣一
発行所 日本ヒマラヤ協会
〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-2-7
萬栄ビル501号
電話 03-3988-8474
郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」

事務局日誌 (3月)

- 2日(火) 慶応大学山岳部OB来会し、チベットの登山について情報提供
豊島郵便局に受取人払い申請
9日(火) ヒマラヤ389号発送
11日(木) 「ヒマラヤ」合本用業者へ送付
12日(金) 理事会通知発送

遙かなる高みへ

トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・
現地手配までお引き受けいたします

～ネパール・インド・ブータン・パキスタン・
中国・東南アジア・アフリカ・中南米～



◆格安航空券のご相談は◆
キャラバンデスク
(東京) ☎03(3237)8384 (直通)
(大阪) ☎06(6362)6060 (直通)

トレッキング・海外登山・シルクロード・秘境旅行のバイオニア ■本

社/〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3-1



株式会社 西遊旅行

国土交通大臣登録旅行業第607号・日本旅行業協会正会員

西遊旅行ホームページ (<http://www.saiyu.co.jp>)

岩波書店アネックス5F
☎03(3237)1391(代) FAX 03(3237)1396

■大阪営業所/〒530-0026 大阪市北区神山町6-4 北川ビル5F
☎06(6367)1391(代) FAX 06(6367)1966

お問い合わせ・お申し込みフリーダイヤル
(通話料無料)をご利用下さい。

☎0120-811395

東京新聞の山岳書

東京新聞出版局

〒100-0011 東京都千代田区千代田2-1-4 日比谷中ビル6F
TEL: (03) 3595-4830 (代)
<http://www.tokyo-np.co.jp/tbook>

山書散策

今まで数多く発刊された山書、何を眺めたらよいのか、そんな時の指針として「岳人」連載時から好評。

河村正之 著
1500円

登山の運動生理学百科

「どうしたら合理的で安全な登山ができるのか」を、ヒマラヤなど高山登山実績を踏まえて、分かりやすくまとめた。

山本正嘉 著
2000円

中高年登山なんでも百科

「登山に年齢はない」と主張する著者が、より安全により快適に登山を楽しむよう、中高年登山の虎の巻。

福島正明 著
1500円

新・山靴の音

還暦をむかえた著者が山への思いと、山の仲間との交遊を綴る。

芳野満彦 著
1262円

女性ガイドのしなやか登山術

常識にとらわれず、自在に知恵を働かせれば山はもっと素敵になると呼びかける、女性登山ガイドのユニークな登山講座。

樋口英子 著
1500円

新・山の雑学ノート・第1集

山での話題が盛りだくさんの雑学は、はまなみ。豊かな雄大な山をより楽しむための安全にしてください。

岳人編集部編
1400円

中高年の雪山入門

低山から夢のヒマラヤまで、トラブルを未然に防ぎ、白銀の大自然を満喫しながら、雪山歩きを楽しむ。

福島正明 著
1600円

山のメモ帖

「岳人」連載の「山の雑学ノート」から95編の話題を取り上げた、山のワンちゃんを深め、安全登山の指針となる冊。

岳人編集部編
1400円

記念日の山に登ろう

人それぞれの記念日の日付と標高が一致する山はどれに。

石井光造 著
1300円

山の気象と救急法

山の気象と救急法を回避するための天気判断と、事故対策に役立つ救急法を平易に紹介。

飯田睦治郎 著
1359円

北アルプス全山先登記

北アルプス全山先登記を、7つのルートに分け、詳しく解説したルート案内書。

廣川健太郎 著
2500円

山小屋の主人の炉端話

著名な山小屋の主人たちが宿泊の登山者に、炉端で語る一人話の取っ付きのお話。

工藤隆雄 著
1500円

クライミング技術

ジム・クレネのフリークライミングからボルダリング、アルパイン・ビッグウォールまで、すべてのクライマーに必要の「ひとこと」の技術を単なる「モデル」ではなく、その意味や背景までをのべて詳しく解説。実践的なクライミングのノウハウ、心構えなども細かくアドバイス。

菊地敏之 著
1600円

※本体価格に消費税が加算されます。

ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。



Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

●登山本店／〒169-0073 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03-3208-6601
●新宿西口店／〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03-3346-0301
●神田登山店／〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-6-1 (タキビル2F) ☎03-3295-0622
●神田本館／〒101-0051 東京都千代田区神田小川町3-10 ☎03-3295-3215
●八王子店／〒192-0081 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426-46-5211
●大宮店／〒330-0802 埼玉県さいたま市宮町1-37 ☎048-641-5707
●高崎店／〒370-0831 群馬県高崎市新町5-3 ☎027-327-2397
●川越店／〒350-0045 埼玉県川越市南通町14-4 ☎0492-26-6751
●甲府店／〒400-0814 山梨県甲府市上阿原町481-1 ☎055-221-0141
●宇都宮今泉店／〒321-0962 栃木県宇都宮市今泉町1560 ☎028-639-9650
●太田高林店／〒373-0825 群馬県太田市高林東町1386 ☎0276-38-0620
●松本店／〒390-0874 長野県松本市大手3-4-24 ☎0263-36-3039
●長野店／〒380-0825 長野県長野市末広町1356 ☎026-229-7739
●新潟店／〒950-0087 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025-243-6330

●新潟とやの店／〒950-0982 新潟県新潟市堀之内南1-16-52 ☎025-241-5134
●仙台店／〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 ☎022-297-2442
●秋田広小路店／〒010-0001 秋田県秋田市中通1-4-5 ☎018-884-1771
●盛岡大通店／〒020-0022 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎019-626-2122
●札幌店／〒060-0062 北海道札幌市中央区南二条西4-8 ☎011-222-3535
●北十二条店／〒001-0012 北海道札幌市北区北十二条西3-5 ☎011-747-3062
●伏古店／〒007-0861 北海道札幌市東区伏古一条4-1-45 ☎011-787-0233
●平岡店／〒004-0874 北海道札幌市清田区平岡四条1-43-9 ☎011-883-4477
●外商部(メールオーダー係)／〒169-0073 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03-3200-7219



ICI 石井スポーツ

事務所／〒169-0073 東京都新宿区百人町1-4-15 ☎03-3200-1004